

立教大学に対する大学評価（認証評価）結果

I 判定

2024年度大学評価の結果、立教大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。認定の期間は、2025年4月1日から2032年3月31日までとする。

II 総評

立教大学は、建学の精神「Pro Deo et Patria」に基づき、「普遍的なる真理を探求し私たちの世界、社会、隣人のために働くことができる専門性に立つ教養人」の育成を目的としている。これらに基づく大学の目的を実現するため、入学から卒業までを3期（導入期・形成期・完成期）に区分した段階的・体系的かつ自由度の高い学びとして「RIKKYO Learning Style」を2016年度から展開するとともに、「大学中期計画（2023-27年度）」を策定し、重点政策とする事業を展開するなど、教育研究活動の充実に向けて継続的に取り組んでいる。

内部質保証については、「理念・目的の実現に向けた教育活動等の改善・向上を継続的に行うこと」と定義し、「全学的な合議体で取り扱う全ての教育研究活動等」を全学内部質保証推進組織が担う質保証の対象と定め、全学内部質保証推進組織を8つの合議体（「部長会」「大学院委員会」「教育改革推進会議」「国際化推進会議」「全学共通カリキュラム運営センター委員会」「自己点検・評価運営委員会」「入試委員会」「不正防止計画推進本部会議」）と定めている。8つの合議体は総長をはじめとした執行部と全ての学部長等で構成し、各合議体が所管する事項について全学的な教育研究に係る重要事項等の質保証を推進している。また、総長等の執行部と総長室が俯瞰的観点から8つの合議体の運営等を統括しており、教育や国際化に係る施策について毎年点検・評価している。各学部・研究科、その他の組織における教育のPDCAサイクルを機能させるため、年度ごとに重点評価項目を定めて各組織で点検・評価し、その結果に基づき全学内部質保証推進組織から学部長等を通じてフィードバックし、改善に結びつけている。また、自己点検・評価の客観性を担保すべく、学外の有識者による「諮問委員会」を毎年度開催し、外部評価の結果も改善に反映している。

教育については、全ての学部・研究科で3つの方針（学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）、学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー））を整合的に定め、全学的な初年次教育「立教

立教大学

ファーストタームプログラム」に加えて、各学部の専門教育科目に演習科目を配置して少人数による効果的な教育を行うとともに、全学部でアカデミックアドバイザーが各学生への個別の学習指導・助言・情報提供等を行っている。また、学士課程では、学生自身が修得した知識・能力等を把握できるよう各学部でカリキュラムマップを作成し、2015年度から2019年度にかけて複数のルーブリックを開発するとともに、2017年にはeポートフォリオシステム「立教時間」を導入して学習成果の測定に着手に取り組んでいる。「立教時間」に学生の活動記録を蓄積し、学生は学位授与方針に定める学習成果を確認しながら教育課程に沿った履修計画を立てることが可能となっており、自律的な学びを促しつつ、学びの成果の可視化を図っている。

2017年度よりリベラルアーツを英語で学ぶ「Global Liberal Arts Program (GLAP)」を設け、自ら考え、行動し、世界とともに生きるグローバルリーダーを育成している。独自の教育を展開するためGLAP運営センターを設置して円滑な運営に努め、これまでの成果を踏まえて組織的に独立した学位プログラムとして発展させていく方針であり、教育理念や大学の目的の実現に資する教育組織として有意な成果が期待できる。また、建学の精神等を反映した「社会連携方針」に基づき、教育研究活動の成果を社会に還元させるための多様な取り組みを継続的に展開し、全学共通科目の科目群に講義系と実践系による「立教サービスマーケティング(RSL)」を設け、多様な社会的課題を題材とした体験学習を通じて社会貢献を学び、学生がボランティア等に参加して地域の課題解決・活性化等に貢献していることは高く評価できる。

一方で、改善すべき点もいくつか見受けられる。学位授与方針に関し、法学部では学科によって異なる学位を授与しているが、学科に共通する学習成果を方針に示しているのみであるため、学位ごとの学習成果を明示するよう改善が求められる。また、大学院では、学位授与方針に示した能力等(学習成果)をきめ細かに把握・評価し、その結果を可視化して説明責任を果たすと同時に教育の改善に活用するよう、全学的な体制のもとで指標の開発等に取り組まれない。さらに、一部の学部・学科、研究科・課程における定員管理についても、引き続き改善することが求められる。

今後は、独自の学習スタイルやポートフォリオ、ルーブリックなどの新たな取り組みの成果を検証し、内部質保証を機能させて上述の特色ある多様な活動を伸長するとともに、教育研究活動や社会貢献活動の更なる充実及びより一層の発展を期待したい。

Ⅲ 概評及び提言

1 理念・目的

<概評>

- ① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

立教大学

当該大学は、創設者が掲げた建学の精神「Pro Deo et Patria」に基づき、大学の使命を「キリスト教に基づいて人物を陶冶し、文化の進展に寄与する」こととしている。また、建学の精神を今日的に解釈し、「普遍的なる真理を探求し私たちの世界、社会、隣人のために働くことができる専門性に立つ教養人」の育成を掲げている。このことは「立教大学の教育目的と各種方針」において明確に示している。上記に掲げた「専門性に立つ教養人」の育成のため、学士課程教育の目的として知識、技能、態度、体験の4つの面から教育を実践することを明示している。そのうえで、この実践によって得られるべき「学修成果」として「真理を探求する」「自己を確立する」「他者との共生」を掲げ、そのうえで細目として9項目を定めている。

各学部・研究科では、学位授与方針に「教育目的」を記載している。例えば、文学部では「世界の多様な文学・言語・文化・歴史・思想・教育に関するテキストや事象に触れることを通じて、幅広い人文的教養と深い人間理解に裏打ちされ、主体的な批判精神をもって社会に貢献できる人間を育てる」こと、文学研究科では、「文学部における一般的ならびに専門的教養の上に、文学、史学、教育学、比較文明学を研究し、その深奥を究め、かつ、キリスト教に基づいて人格を陶冶し文化の進展に寄与すること」を目的としている。他の学部・研究科も同様に、建学の理念に基づき、人材育成の目的を定めている。大学院においては、博士課程前期課程、博士課程後期課程それぞれについて、授与する学位ごとに教育目的を定めている。

以上のように、建学の精神及び教育理念に基づき、大学の使命・教育目的を定め、これを実現させるための具体的な各学位課程の教育目的を示し、学習成果を明らかにすることで学位授与方針との一貫性を担保している。全学としても学部・研究科としても建学の精神等に基づいた教育目的を適切に定めていると判断できる。

② 大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

大学の使命、教育目的は、「学校法人立教学院寄附行為」（以下「寄附行為」という。）「立教大学学則」（以下「学則」という。）及び「立教大学大学院学則」（以下「大学院学則」という。）に定めている。また、上記の諸規程を大学ホームページにて公表し、社会に対して公表している。そのうえで、学部・研究科の目的を明示するとともに、教職員・学生への周知を図っている。

学生への周知に関し、建学の精神を今日的に解釈して掲げている「専門性に立つ教養人」の育成に加え、「大学案内」（Campus Guide 2024）において「リベラルアーツ」を学ぶ旨を示しており、これらは建学の精神に通じる重要な要素であ

ることから、教育の理念に関するリベラルアーツについて、リベラルアーツを学び専門性のある教養人になることが、現実社会の問題の解決に貢献できると述べている。これにより、当該大学の考えるリベラルアーツに関し、建学の精神に基づく教育理念を明確、かつ、わかりやすく説明している。また、全学共通科目において「立教大学の歴史」を開講し、日本近現代史のなかでの当該大学の歴史及び特色を学ぶことで学生の大学に対する理解を深めるよう努めており、特色ある取り組みといえる。特に、創立 150 周年を迎えた 2024 年には、学内外に教育理念や大学のもつ伝統を積極的に発信している。

一方で、大学院学則に博士課程前期課程及び博士課程後期課程の目的を定め、たうで各研究科の目的を定めているが、研究科ごとの目的では各課程の教育研究上の目的がわかりにくいため、より明確に示すことが望まれる。

以上のことから、大学の使命・教育目的を学則等に適切に定め、学内外に公表しているといえる。

③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

2021 年度に総長のもとで「大学運営の基本方針（2021-24 年度）」を定めており、同方針において、建学の精神及び教育の理念をもとに、2005 年に決定した「立教ヒューマン・コラボレーション宣言」を発展させて「立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言」の公表に至っている。これらのことから、建学の精神等を継承・維持しつつ、時代とともに適切に対応させた中・長期計画の礎にもなっているといえる。

大学の目指す人材である「専門性のある教養人」の育成に向けて、2016 年度から「RIKKYO Learning Style」を展開している。また、「大学中期計画（2023-27 年度）」においても、重点事業として「RIKKYO Learning Style 第 2 ステージの推進」を掲げている。そのほか、重点事業として、スポーツウェルネス学部・研究科の新設とコミュニティ福祉学部・研究科の再編、国際化事業、情報戦略 2.0 の推進を掲げている。

2017 年度の本協会による大学評価（認証評価）の結果で指摘を受けた研究科の収容定員に対する在籍学生数に関する点については、中期計画を踏まえて、未充足の研究科が改善対応策を策定して取り組み、その他の指摘についても同様に改善に取り組んでいる。また、2022 年度の「部長会」において、「大学中期計画・事業計画管理委員会」を設置することが決定し、同委員会が中期計画の評価を行うこととなった。具体的には、「大学運営の基本方針」を具現化するために中期計画・事業計画の各事業を設定しており、2022 年度を起点とする 27 事業の評価について、計画を上回って達成した事業、計画通りに進行した事業、計画を下回

った事業の3つの評定（A評価～C評価）に分類し、計画を下回ったと評価した事業については、新型コロナウイルス感染症拡大が原因のものも多かった一方で、既に目標としていたスポーツウエルネス学部・研究科の新設、コミュニティ福祉学部・研究科の再編を実現している。このように、大学評価（認証評価）の結果を中期計画に反映し、中期計画のもとで改善に取り組んでいる。

なお、上記の4つの重点事業を定めることにより、戦略的な予算配分を可能とするとともに、実効性を担保するために5年を期間として計画している。また、単年度の事業計画の運営基盤となる組織、施設、財務等を計画するとともに、定期的に中期計画の進捗を把握し、適宜修正することによって、実現可能性を担保している。

以上のことから、大学の使命・教育目的、学部・研究科の教育目的を達成するため、将来を見据えた中期計画を適切に策定していると判断できる。

2 内部質保証

<概評>

① 内部質保証のための全学的な方針及び手続を明示しているか。

内部質保証のための全学的な方針として、「内部質保証に関する方針」を定めて大学ホームページで公表し、内部質保証と教学の関連図（概念図）とともに、教職員を含めた全ての関係者で共有している。また、内部質保証を「本学の理念・目的の実現に向けた教育活動等の改善・向上を継続的に行うこと」と定義し、全学内部質保証推進組織が担う質保証の対象は「全学的な合議体で取り扱う全ての教育研究活動等」としている。なお、①全学的に行う内部質保証、②学部、研究科等が行う内部質保証、③組織的な内部質保証、④事務部局が行う内部質保証の4つで推進するとしている。

内部質保証の体制として、全学的に行う教育研究に係る重要事項等の質保証の推進については、総長をはじめとした執行部と全ての学部長等で構成する8つの合議体（「部長会」「大学院委員会」「教育改革推進会議」「国際化推進会議」「全学共通カリキュラム運営センター委員会」「自己点検・評価運営委員会」「入試委員会」「不正防止計画推進本部会議」）で審議することを示している。以前から「全ての学部長」等の合議結果を踏まえて総長が意思決定を行うことが慣習となっており、副総長や専門組織の支援を受けながら内部質保証に関わる重要課題を具体化して逐次実施に移す「重点課題別の部長会運営」を実現するために、この形式を採用している。これらの合議体は、同日に開催しており、各合議体の構成員は一部を除いて変更がないものの、審議事項や担当事務局により、合議体の名称と役割を変えている。全学内部質保証推進組織を構成する8つの合議体には、総長及び担当副総長のほか、全ての学部長及び研究科委員長（一部例外

あり)が出席し、全学内部質保証推進組織と各学部・研究科等との窓口を担っており、各学部・研究科等が行う教育の質保証と連携することを明示している。

内部質保証の手続については、教育の企画・設計、運用、検証及び改善・向上の指針(PDCAサイクル)として、「部長会」で各種方針、中期計画の策定を担い、「教育改革推進会議」で3つの方針(学位授与方針、教育課程の編成・実施方針、学生の受け入れ方針)の策定・改定を担い、「自己点検・評価運営委員会」が自己点検・評価の仕組み等の各種目標・計画を設定し(Plan)、8つの合議体の指示に基づいて学部・研究科等で教育を実施し(Do)、その結果を全学に共有して合議体(「教育改革推進会議」「国際化推進会議」「自己点検・評価運営委員会」)で審議して適切性、有効性を検証する(Check)。そのうえで、合議体が検証結果を踏まえて課題解決に向けた新たな取り組みを決定する(Action)こととなっている。

以上のことから、内部質保証のための方針及び手続を適切に明示している。

② 内部質保証の推進に責任を負う全学的な体制を整備しているか。

内部質保証に関する方針に沿って、全学内部質保証推進組織として8つの合議体を位置づけ、これらを中心に内部質保証システムを構築している。また、いずれの合議体も構成員は、総長をはじめとした執行部と全ての学部長、一部の事務部長等を基盤としており、各合議体はそれぞれの規程に定める審議事項の質保証を推進する役割を担っている。なお、「部長会」以外の7つの合議体を開催する場合には、毎週開催する「部長会」と同日に開催している。

「部長会」は、教育研究の重要事項を審議し、総長が議長となり、総長、副総長、全ての学部長(研究科の基礎となる学部の長は研究科委員長と同一の者)、3つの独立研究科から互選で選出する独立研究科運営部長等が構成員となっている。

「大学院委員会」は、大学院の教育研究の重要事項を審議し、総長が議長となり、全ての研究科委員長を構成員としている。

「教育改革推進会議」は、原則として毎月開催しており、学士課程教育及び大学院教育の改善を図り、その充実と高度化を推進している。総長が議長となり、全ての研究科委員長、総長が指名する推進責任者(副総長)及び大学教育開発・支援センター長が構成員となっている。

「国際化推進会議」は、原則として毎月開催しており、国際化の推進を図るとともに、その充実と高度化を推進している。総長が議長を務め、全ての研究科委員長、総長が指名する推進責任者(副総長)が構成員となっている。

「全学共通カリキュラム運営センター委員会」は、全学共通科目の基本方針等を審議しており、同センターの部長が委員長を務めている。

「自己点検・評価運営委員会」は、年に2回以上開催しており、自己点検・評価の基本的枠組みを審議している。委員長は総長が指名した副総長が務めている。

「入試委員会」は、入学者選抜の方針、選抜方法等を審議している。委員長は各学部長の互選により選出し、部長会構成員のほか、総長が指名する入学センター長が構成員となっている。

「不正防止計画推進本部会議」は、原則として春学期及び秋学期に1回ずつ開催しており、不正防止に関する全学的な取り組みの策定及び見直しに関する事項を審議している。同会議は、総長が指名する統括管理責任者（副総長）が議長となっている。

上記の8つの合議体は、年度はじめの会議において前年度の取り組みについての成果や問題点等の振り返りを行い、PDCAサイクルを推進している。

以上のことから、内部質保証の推進に責任を負う組織を8つの合議体で構成し、全学的な内部質保証体制を設けている。一方で、8つの合議体会議の開催前後に不定期に開催している「総長室会議」や「総合企画会議」「部長会運営会議」等も内部質保証推進の一端を担っていることから、内部質保証の概念図に含め、内部質保証における位置付けを明確に示すことが望まれる。

③ 方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。

全学としての3つの方針を定め、各学部・研究科はこれらに基づき、それぞれの3つの方針を定め、毎年度「教育改革推進会議」から3つの方針及びカリキュラムマップの点検を各学部・研究科に依頼し、同会議において全学的な観点から確認している。

「自己点検・評価運営委員会」において、本協会の定める大学基準に基づき年度ごとに「重点評価項目」を定めており、7年間で全ての基準を取り扱うこと、教育課程等に関する事項は2回以上取り扱うこと、改善報告書の提出年度及び新組織の設置を予定している年度等には関連する項目を取り扱うことを原則としている。なお、2018年度から学部・研究科等の点検・評価報告書様式に「全学的な課題」欄を追加し、2021年度から各学部・研究科の点検・評価結果を踏まえ、全学で対応すべき課題を「全学的に検討を要すべき課題」として整理・提示している。

各学部・研究科等の教育のPDCAサイクルを機能させるため、「部長会」で各学部・研究科等の次年度の「教学条件」（学生定員数、専任教員枠数、展開コマ数等）や予算を定め、これに基づき各学部等で教育研究活動の計画を策定して取り組んでいるほか、2024年度の「部長会」でGLAPの実績を踏まえ同プログラムに専任教員、任期付教員、キャリア指導に係るスタッフを配置することを決定している。さらに、毎年度3つの方針の点検や「FD展開状況報告書」の提出

を「教育改革推進会議」から各学部等に指示し、大学教育開発・支援センターの「TL (Teaching and Learning) 部会」「教学IR部会」が教育のPDCAを支援している。一方、各学部・研究科は毎年の教育の取り組みを「教育改革推進会議」に報告し、年度始めに同会議から総長に前年度の取り組みとして報告することで各年度の教育活動を全学的に把握して課題を改善する仕組みが機能しているが、このプロセスにおける各学部・研究科による教育活動の振り返り・総括をより一層明確にすることが望まれる。

学外の有識者による「諮問委員会」を毎年度末に開催し、当該年度の教育活動や前年度指摘事項への対応状況を報告している。外部評価での指摘事項は、上記の点検・評価に基づく課題に反映して改善に取り組んでおり、例えば、2017年度に英語で専門領域を学ぶ視点を強化する必要性の指摘を受け、2020年度に外国語教育研究センターを設置し、2024年度までに必修科目からCLIL（内容言語統合型学習）科目を経て各学部が展開する学部EMI科目（英語で教授する専門科目）へとつなぐ4年間を通じた継続的な教育課程を実現した。また、2018年度には「スーパーグローバル大学創成支援事業（TGU: Top Global University Project）におけるスピード感不足」の指摘を受け、グローバル教養副専攻制度の導入、シラバスの英語化、新たな入試制度の導入及び学部連携型英語コースの設置を行った。

認証評価機関及び行政機関からの指摘事項について、収容定員の変更に係る学則変更（2017年度、2022年度、2023年度）及びスポーツウエルネス学部の設置認可申請（2022年度）等を行っており、2023年度の設置計画履行状況等調査で一部の学部・学科の定員超過の指摘を受けているため、改善に取り組まれない。また、2017年度の本協会による大学評価（認証評価）結果で指摘を受けた事項に対し、全学的な方針を定めて改善に取り組み、改善報告書を提出している。

以上のことから、「自己点検・評価運営委員会」を中心に点検・評価を実施し、その結果や外部評価の結果を受けて、全学内部質保証推進組織の8つの合議体が各所管事項に該当する課題の改善を検討し、「部長会」の構成員である各学部長を通じて各組織に改善指示し、内部質保証システムを機能させて教育課程・教育方法の充実につなげている。

④ **教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしているか。**

大学の基本的情報を「教育情報」及び「経営・財務情報」に分けて透明度の高い情報公開を行っており、教育研究上の目的、教育目的や各種方針等のほか、教員が有する学位・業績、点検・評価の結果をはじめ、認証評価結果、外部評価結果（日本語・英語）、認可申請書等を大学ホームページで公開している。また、

財務計算書類に加え、2022 年度までは決算の概要説明・グラフ等を付記するなどわかりやすい情報公開となっている。さらに、事業計画書及び事業報告書を法人のウェブページで公開し、保証人等の関係者に郵送している雑誌『季刊立教』にも財務情報を掲載している。

情報の得やすさに配慮し、大学ホームページのトップページ最下部に公表情報の目次を体系的に表示し、閲覧者の利便性にも配慮している。さらに、学生数等の基本的なデータをグラフや図表で示した『立教大学ファクトブック』を作成し、大学ホームページで公開している。

以上のことから、適切に情報を公開し、社会に対する説明責任を果たしているといえる。

⑤ 内部質保証システムの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

内部質保証の適切性の点検・評価について、「自己点検・評価運営委員会」から毎年度、各学部・研究科等での合議体の設置状況や開催頻度等についての報告を求めている。2021 年度、2023 年度には、内部質保証を「重点評価項目」として点検・評価し、全学内部質保証推進組織である 8 つの合議体の規程や点検・評価に係る規定の内容、実際に P D C A サイクルが機能していることを確認している。

これまでの内部質保証に係る改善として、前回の大学評価（認証評価）の申請に際しての点検・評価の結果に基づき、「自己点検・評価運営委員会」で点検・評価の方法の改善を企画・実行している。具体的には、項目③に既述したように、「重点評価項目」を設定した点検・評価、点検・評価報告書様式への「全学的な課題」欄の追加に加え、「全学的に検討を要すべき課題」として、2020 年度及び 2021 年度に既存の各種方針を改定する必要性を取り上げ、内部質保証に関する方針等を改定し、2024 年度に公表している。

以上のことから、内部質保証の適切性を点検・評価し、その結果を踏まえて点検・評価の方法や内部質保証の方針の改善につなげている。

3 教育研究組織

<概評>

① 大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。

建学の精神及び大学の使命に基づき、2023 年度の時点で 11 学部（文学部・経済学部・理学部・社会学部・法学部・観光学部・コミュニティ福祉学部・経営学部・現代心理学部・異文化コミュニケーション学部・スポーツウエルネス学部）・28 学科・8 専修等及び大学院に 15 研究科（文学研究科・経済学研究科・

理学研究科・社会学研究科・法学研究科・観光学研究科・コミュニティ福祉学研究科・ビジネスデザイン研究科・社会デザイン研究科（2023年度まで21世紀社会デザイン研究科）・異文化コミュニケーション研究科・経営学研究科・現代心理学研究科・キリスト教学研究科・人工知能科学研究科・スポーツウエルネス学研究科）・28専攻を設置している。これらは、建学の精神を今日的に解釈して示した「普遍的なる真理を探究する場」を実現するに適した構成となっている。さらに、各学部や研究科の教育研究領域に関連した基礎的な内容から先端分野にまで及ぶ多種多様なセンター、研究所及び機構等のほか、ボランティアセンターや立教サービスラーニングセンター等の教育活動と社会連携活動をつなぐ実践的な組織を設け、社会的要請や国際的環境等に配慮しつつ、建学の精神の実現にふさわしい教育研究組織を設置している。

なかでも、リベラルアーツを英語で学ぶプログラムとして2017年度に文学部文学科にGLAPを設けており、独自の3つの方針を日本語・英語で定め、1年間の留学を含めて Humanities、Citizenship、Business 分野を中心に幅広く学ぶ教育課程を確立し、徹底した少人数教育を通じて、自ら考え、行動し、世界とともに生きるグローバルリーダーを育成している。独自の教育や入学者選抜を実施するため、GLAP運営センターを設置しており、2024年度には同プログラムに専任教員・任期付教員のほか、キャリア指導に係るスタッフを配置することを「部長会」で決定し、組織的に独立した学位プログラムとして発展させていく方針としている。こうした教育組織を設けて先進的な教育を展開し、学位プログラム制を試行しつつ、実績・成果を踏まえて組織の充実・強化を図っており、建学の精神及び教育の目的を更に進め具現化するプログラムとして高く評価できる。

以上のことから、建学の精神を踏まえた大学の使命・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であり、なかでもGLAPで先進的な教育を展開していることは特長といえる。

② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

教育研究組織の適切性の点検・評価は、学部設置等の新規施策の実施については、「部長会」がワーキンググループや設置準備室を設置して取り組んでいる。2018年度から2022年度までの期間においては、「部長会」のもとに統括副総長、総長室長等を構成員とする「学部等設置構想検討プロジェクト」を設置し、コミュニティ福祉学部の再編やスポーツウエルネス学部及び人工知能科学研究科の新設に取り組んでいる。また、既存の各学部・研究科の適切性の点検・評価は、「自己点検・評価運営委員会」が大学基準に基づく評価項目を用いて行っている。さらに、中期計画・事業計画では、教育研究組織に関連する事業として、スポー

ツウエルネス学部の新設及びコミュニティ福祉学部の再編、大学院学内制度改革による大学院教育の拡充について、担当副総長が主管（事務）部局とともに年2回点検・評価を行い、「大学中期計画・事業計画管理委員会」でとりまとめ、その結果を「部長会」及び「自己点検・評価運営委員会」に報告している。

教育研究組織の点検・評価に基づく改善・向上として、「学部等設置構想検討プロジェクト」において「人工知能科学研究科（仮称）設置構想検討ワーキンググループ」を設置し、「人工知能科学研究科設置準備室」を経て、2020年度より人工知能科学研究科を開設している。また、GLAPの教育状況・学習成果を「部長会」で点検・評価した結果、安定的な運営と目指す人材の育成で一定の成果が上がっていることから、持続可能な体制整備に向けて教員組織を強化することを決定している。

以上のことから、教育研究組織の適切性を点検・評価し、改善・向上に取り組んでいる。

<提言>

長所

- 1) リベラルアーツを英語で学ぶ「Global Liberal Arts Program (GLAP)」を設け、徹底した少人数教育による1年間の留学を含めた教育課程を確立し、自ら考え、行動し、世界とともに生きるグローバルリーダーを育成している。独自の教育を運営するため、GLAP運営センターを設置し、学習成果等を踏まえて絶えず検証し、2024年度には同プログラムに専任教員やキャリア指導に係るスタッフを配置し、学位プログラム制を試行しつつプログラムを充実させている。このような先進的な教育を展開する組織を設け、建学の精神・教育理念を更に進めて実現していることは、評価できる。

4 教育課程・学習成果

<概評>

- ① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

「立教大学の教育目的と各種方針」に全学レベルの学位授与方針、学士課程教育の理念を明記し、学士課程教育の目的として知識、技能、態度、体験の4つの実践面から修得すべき事項を明らかにしたうえで、これらを統合した教育の実践を通じて修得する9つの学習成果を明示している。

各学部・研究科の学位授与方針について、全学共通の成果と学部独自の学習成果を示しており、学部独自の目標にはそれぞれ全学の方針で示した学習成果との関連性を明記している。研究科においても、同様に学位授与方針を定めており、例えば、異文化コミュニケーション研究科では、博士課程前期課程と博士課程後

期課程とを分けて、学位授与方針を定めている。ただし、法学部では、法学科及び国際ビジネス法学科では「学士（法学）」、政治学科では「学士（政治学）」を授与しているが、学位授与方針には3つの学科に共通する学習成果のみを示しているため、学位ごとの学習成果を明示した学位授与方針を定めるよう、改善が求められる。

いずれの学部・学科の学位授与方針も「教育目的と各種方針」に示し、同方針を含めた「立教大学の教育目的と各種方針」についても、大学ホームページを通じて公開している。

以上のことから、原則として学位ごとに学位授与方針を定めており、公表している。ただし、一部の学部・学科では複数の学位を授与しているにもかかわらず、学位授与方針には共通する学習成果のみを定めているため、学位ごとの学習成果を明示することが求められる。

② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

学士課程教育の理念を踏まえ、専門性に立つ教養人の育成に向けて、全学共通科目・専門教育科目・正課外教育を総合的にとらえ、学士号取得に向けた4年間を「導入期」「形成期」「完成期」に分けて教育課程を編成することを全学の教育課程の編成・実施方針に示している。具体的には、導入期では大学で学ぶことの意味と専門領域の基礎を学び、形成期では知識を修得して専門性を高めながら、社会や他者、異文化への理解を深め、完成期で大学での学びの集大成を行うとともに自身の成長を振り返りつつ、将来の人生を展望することを明示している。こうした教育課程を「RIKKYO Learning Style」と称し、「立教大学の学びのスタイル」として学生に周知を図っている。

これに基づき、各学部において、教育課程の編成・実施方針を定めている。例えば、コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科では、導入期、形成期、完成期にそれぞれ7項目を「ねらい」として各期に身に付ける能力を明示するとともに、「教育課程の構成」等で教育課程の特色を示している。他の学部においても、項目化をしていない場合でもいずれも3つの期にどのような学びを行うべきかを明示している。また、研究科においても、同様に教育課程の編成・実施方針を定めている。例えば、コミュニティ福祉学研究科では、博士課程前期課程で必修科目に「研究基礎」を配し、1年次秋学期から「研究指導」を段階的に履修すること、選択科目で他研究科設置科目、大学院間単位互換科目等の履修により周辺知識を修得することができる旨を定め、博士課程後期課程ではリサーチワークとコースワークを組み合わせた教育課程を編成することを定めている。

いずれの学部・学科の教育課程の編成・実施方針も「教育目的と各種方針」に示し、同方針を含めた「立教大学の教育目的と各種方針」についても、大学ホー

ムページを通じて公開している。

以上のことから、授与する学位ごとに教育課程の編成・実施方針を適切に定め、大学ホームページを通じて公表している。

③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

全学の教育課程の編成・実施方針に基づき、導入期（立教ファーストタームプログラム）、形成期、完成期に区分し、段階的に学ぶカリキュラムを編成している。また、科目ナンバリングを導入し、これによって学生が順次・体系的に学ぶことができるよう配慮している。全学共通科目の総合系科目では、「学びの精神」「多彩な学び」「スポーツ実習」の3つの科目群に分類し、それぞれの時期に適した科目を履修する構成としている。言語系科目では、必修科目には基礎的な科目を配し、言語能力のみならず当該言語圏の文化を学び、更に高度な言語運用能力の習得を希望する学生に向けて自由科目を設けている。さらに、選択したテーマに沿って指定された総合系科目及び言語系科目群を体系的に学ぶことで、各学部で学ぶ専門性に加えて、複数の分野にわたる知識を修得できるよう「グローバル教養副専攻」を設けている。

各学部では、学科ごとに教育課程の編成・実施方針に基づき、必修科目・選択科目・自由科目を設け、導入期、形成期、完成期それぞれで履修すべき科目を明示している。そのために、カリキュラムの構造を図示している。例えば、法学部では、選択科目のなかに法学部科目を設け、「法学入門」「政治学入門」などの法学基本科目による「法学科A」と「国際私法」や「政治社会学」「自治体長期インターンシップ」等を含む「法学科B」を設けている。そのうえで「演習系科目」群、「演習科目」のほか、教職課程と連動した科目を「法学部自由科目」に配し、「法政リーディング&ライティング」を随意科目に配置している。

大学院については、博士課程前期課程、博士課程後期課程に分けて、学位取得までに必要な履修科目を示している。例えば、ビジネスデザイン研究科では、「基礎モジュール」「応用／専門モジュール」「修了研究モジュール」の三層構造で教育課程を編成している。社会デザイン研究科では、「社会デザイン学科目群」を中心にして、3つの研究指導分野である「社会組織理論科目群」「コミュニティデザイン学科目群」「グローバル・リスクガバナンス科目群」の計4種の科目群を置き、それぞれの分野において体系的に学ぶことができるよう編成している。博士課程後期課程においては、経済学研究科、異文化コミュニケーション研究科、ビジネスデザイン研究科、社会デザイン研究科では、研究業績をポイント化し、研究科が定めるポイント以上の取得を博士学位申請の要件の1つとすることで、学生が計画的に研究をできるようにしている。

以上のことから、教育課程の編成・実施方針に基づき、学部では全学的に3つの期に応じたカリキュラムを編成しており、全学共通教育と各学部・学科の専門教育による各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成している。大学院においてもそれぞれの専門分野に応じてコースワークとリサーチワークを組み合わせた教育課程を適切に編成している。

④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

学部では、1年次の春学期に「立教ファーストタームプログラム」を開講し、学生が大学での主体的な学びの姿勢を身につけるとともに、各学部の専門教育科目において「学びの技法」を学ぶため、1年次全員が少人数による演習科目を履修することとしている。さらに、各学年に演習科目を配置し、少人数による教育をとり入れるなど効果的な教育を実施している。

全ての学部において新入生及び在學生を対象とした「履修ガイダンス」を行っている。「授業評価アンケート」及び「学修成果ルーブリック」を活用して学生の学びの進捗と学生の理解度を把握し、アンケートでは単に学生の意見を聞くのみならず、担当教員がそれに対して改善方法を記載し、学部ごとに総評も含めて公表している。また、eポートフォリオシステム「立教時間」に学生の活動記録を蓄積しており、学生は学位授与方針に定める学習成果を確認しながら、教育課程に沿った履修計画を立てることが可能となっている。さらに、博士課程後期課程の大学院学生が図書館の活用の仕方やレポート・論文作成についてアドバイスするラーニングアドバイザー制度を導入しているほか、教務部の主催のもと上級生が新入生に履修アドバイスを行う個別相談会を実施している。

単位の実質化を図るため、1年間に履修登録できる単位数の上限を設定しており、上限設定から除外している教職や学芸員等の資格取得の課程（学校・社会教育講座科目）や理学部では随意科目を履修する学生に対して「学校・社会教育講座履修ガイドブック」で単位制の趣旨や相当量の学習が必要なことを説明するとともに、アカデミックアドバイザーによる履修指導を行っている。今後は、資格取得を目指して学習を始めた学生の成績や単位修得状況を継続的に検証し、指導を行うことが望まれる。また、授業外での学習を促し、その時間を担保するため、シラバスに「授業時間外（予習・復習等）の学習」欄を設けているものの、その内容が必ずしも十分とはいえない。2023年度より授業支援システム「Canvas LMS」を導入するとともに、2025年度の「シラバス執筆の手引き」では詳細な授業外学習時間の記述を求めることとしており、これらを活用した授業外学習の促進を期待したい。なお、各学部でシラバスの記載をチェックして担当教員に必要な修正を求め、学生による授業アンケートでもシラバスを評価項目に加えている。

研究科においては、入学から学位取得までのスケジュール及び研究指導の方法

について、いずれの研究科でも「履修要項」に明示している。また、大学院教育においても、自主的な学習・研究活動を促しており、社会学研究科博士課程前期課程では「プロジェクト科目」や「社会学特別講座」を通じて、コミュニティ福祉学部附置のコミュニティ福祉研究所では「立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金」に教員・学生参加型の研究プロジェクトを設けている。

以上のことから、各学部・研究科において学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うためのさまざまな措置を講じている。

⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

全ての学部でGPAを導入し、学部によってはGPAを基準として成績不振の学生へ面談している場合や学生の単位修得状況を基準としている場合がある。今後はGPAに基づき各学部の成績評価の方法や結果の適切性を検証することを期待する。また、社会学部では共通科目の「社会調査法」と「情報処理 I (入門)」について、成績の評価のあり方を議論し、全科目の成績分布を教授会で提示して確認することで成績評価の厳格性・公正性の確保を試みている。

卒業認定に関し、経済学部と法学部以外では卒業論文を導入しており、提出方法等の卒業論文に係る事項については「履修要項」に明示している。社会学部では卒論に対して副査が「副査評価シート」を用いて評価し、審査に差が生じることを防いでいる。また、現代心理学部では、心理学科及び映像身体学科ともに、2022年度以降の新入生から、卒業論文・卒業制作に係る科目をそれぞれ選択科目としているが、従前の評価方法を用いて厳正な審査を行っている。

研究科における学位審査及び修了認定について、博士課程前期課程及び博士課程後期課程については、大学院学則及び学位規則に基づき、審査委員会の結果を踏まえて研究科委員会で審議・承認し、総長に上程したうえで、総長が「大学院委員会」を招集して審議することとなっている。なお、博士課程前期課程については、現状と規程に齟齬があることを大学自らが認識しており、今後、規程の改正を含め、運用方法について検討する予定としている。

以上のことから、成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているといえる。

⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

学習成果の把握・評価について、学生自身が修得した知識・能力等を把握できるよう、各学部でカリキュラムマップを作成し、2015年度から2019年度にかけて複数のルーブリックを開発するとともに、2017年にはeポートフォリオシステム「立教時間」を導入し、学習成果の測定に着実に取り組んでいる。さらに、2019年度に「学修成果の可視化にむけたワーキンググループ」を設置し、「学修

成果ルーブリック」の開発に至っており、現在はこれに加えて「英語プレイスメントテスト及び英語力伸長度測定テスト」「学びと成長の歩みの記録（新学修状況調査）」「卒業時調査（卒業時アンケート）」「卒業後調査」「就職先調査」を全学的に実施している。具体的には、英語プレイスメントテスト（入学時）及び英語力伸長テストによって英語学習の進捗状況を把握しており、学位授与方針に示す言語能力の習得・成長を測定している。また、学位授与方針に定める学習成果の項目を含んだ「学修成果ルーブリック」を作成しており、例えば、法学部では、評価の視点と学位授与方針との対応を示したうえで5段階のレベルで達成度を可視化している。さらに、2007年度から「卒業時調査」を実施しており、全学の学位授与方針に示す知識、技能、態度に関する学習成果を問う項目を設けている。そのほか、卒業後3年目の「卒業後調査」を2019年度から、就職実績又は就職希望の多い企業を対象とした「就職先調査」を2020年度から開始している。これらの調査結果等は「教学IR部会」で分析し、「教育改革推進会議」に報告している。

そのほか、「RIKKYO Learning Style」を導入する前後における学生の成長の変化を確認するために、2015年度及び2016年度の入学者に対して「学修状況調査」を実施していたが、2021年度入学者から後継の「学びと成長の歩みの記録（新学修状況調査）」を開始し、教育課程の各期（導入期・形成期・完成期）に対応して行う予定であるため、今後の分析及び情報の蓄積・活用により、教育の向上につながることを期待される。なお、卒業論文や卒業制作については、学部によって必須・選択又は課さないなどの取り扱いが異なっており、卒業論文等を履修しない学生に対して相当する演習を履修するようなカリキュラムとしているが、今後は卒業論文・卒業制作に取り組んだ学生と実施しなかった学生の成果を検証し、学生の学びの質を保証する観点から検証することが望まれる。

大学院の取り組みとして、現代心理学研究科では、授業評価アンケートの項目に学位授与方針に示した能力等の習得を問う項目を設けており、各課程で授業アンケートを実施し、研究科委員会でその結果を分析している。ただし、その他の研究科では、指導教員による報告や研究成果の中間報告会等を通じて把握するとしており、学位論文審査基準を見直して学位授与方針に示した学習成果が身につけているかの観点を加えたものの、これを用いて学習成果の修得度を把握・評価する方法は確立していない。そのため、各研究科・課程の学習成果を明確に測定する方法を開発し、取り組むよう改善が求められる。

以上のことから、各学部においては、各種のアンケート調査や新たに開発した「学修成果ルーブリック」を用いて学位授与方針に示した学習成果の把握・評価に適切に取り組んでおり、その結果の活用についても視野に入れて取り組んでいる。一方、大学院については、一部の研究科を除き、論文指導や審査のみを指標

として学習成果を測定するとしているが、学位授与方針に示した能力等（学習成果）の習得を把握し、評価することが求められる。

⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

教育課程・教育方法の適切性の点検・評価について、学習成果の測定結果を「教学IR部会」で分析して「教育改革推進会議」に報告し、各学部による教育改革に役立てている。また、中期計画に定める「RIKKYO Learning Style」に関する事業等については、担当副総長が主管（事務）部局とともに、年に2回の点検・評価を行い、「大学中期計画・事業計画管理委員会」でその結果をとりまとめ、その結果を「部長会」及び「自己点検・評価運営委員会」に報告している。

教育課程・学習成果の改善・向上に関して、項目⑥にて既述したように、「教育改革推進会議」のもとにワーキンググループを設け、全学的に学習成果の可視化に取り組み、複数のルーブリックの作成・活用を経て、2021年度に全学向けの「学修成果ルーブリック」の開発に至っている。また、導入にあたっては法学部でパイロット版を運用し、2022年度は試行的活用の期間とし、2023年度には各学部が導入することとし、教員用マニュアルを整備するなど、2024年度以降からの活用に備えている。そのほか、2024年度から語学教育のカリキュラムを改定しており、2018年から議論を開始し、2020年に全学的なアンケートを行うなど、学生のニーズに応じた語学教育へと教育課程の改編に取り組んでいる。くわえて、2017年度の本協会による大学評価（認証評価）結果で指摘を受けた大学院の各種方針、カリキュラム、研究指導計画の明示について「自己点検・評価運営委員会」で検討し、いずれも改善している。なお、遠隔授業の活用については、2020年度以降、段階的に検討ワーキンググループを設け、「ミックス型授業」の導入に向けて検討し、2023年度に「部長会」が遠隔授業の活用方針を定め、実施に移している。

以上のことから、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っている。

⑧ 教育課程連携協議会を設置し、適切に機能させているか。（学士課程（専門職大学及び専門職学科）／大学院の専門職学位課程）

該当なし。

<提言>

改善課題

- 1) 法学部では学科によって異なる学位を授与しているが、学位授与方針には学科

に共通する学習成果を示しているのみであるため、学位ごとの学習成果を明示した学位授与方針を定めるよう改善が求められる。

- 2) 大学院の学習成果の測定について現代心理学研究科では授業評価アンケートに学習成果を問う項目を設けているが、その他の研究科では論文指導・審査を通じた把握のみを学習成果の指標とし、学位論文審査基準を見直して学位授与方針に示した学習成果が身につけているかの観点を加えたものの、これを用いて学習成果の修得度を把握・評価する方法は確立していない。そのため、各研究科・課程の学位授与方針に示す知識・技能等の学習成果を把握・評価する明確な方法を開発し、学習成果の把握・測定に取り組むよう改善が求められる。

5 学生の受け入れ

<概評>

① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

全学の学生の受け入れ方針を大学の使命や教育目的等を踏まえて入学試験の種目別に定めており、例えば、一般入試では「本学ならびに各学部の教育目的を理解し、各学部での教育を志望する者に対して、高等学校における教科・科目の学習の達成度を測り、選抜することを目的とする」と定めている。これらを前提として、各学部では、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえて学生の受け入れ方針を定めており、教育目的や教育方法、入学試験の種目別の目的を掲載したうえで、「入学者に求める知識・技能・態度・体験」を明示するとともに、「入学前学習」を示している。

博士課程前期課程・博士課程後期課程では、各研究科において、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえて学生の受け入れ方針を定めている。例えば、文学研究科博士課程前期課程では「学士課程教育で修得した神学（キリスト教学）、文学、史学、教育学のいずれか、またはその関連領域の、一般的ならびに専門的教養と外国語文献の読解力」を有し、そのうえで「批判的精神（自らの責任で真理性を検証する態度）と鋭利な問題意識をもって日本文学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学、史学、超域文化学、教育学、比較文明学の諸分野を研究しようとする学生を受け入れる」ことを定めている。

学生の受け入れ方針は、いずれも大学ホームページで公表している。また、入学希望者に求める水準等の判定方法についても、毎年、「入試委員会」を通じて各学部・研究科で検討している。

以上のことから、全学の学生の受け入れ方針を定め、これを前提として、各学部、各研究科・課程で入学者に求める知識・技能・態度・体験等及び入学前の学習歴を明示した学生の受け入れ方針を適切に定め、公表している。

② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

学生募集及び入学者選抜の方法は、学生の受け入れ方針に基づき、各学部・研究科で検討した後、「入試委員会」で決定しており、この過程を経て、各学部・研究科でさまざまな入学者選抜方法の改善を実施している。学士課程の入学者選抜については、「入試委員会」を入学試験の方針、選抜方法、実施方法等に関する統括的な審議機関と位置づけ、入学試験に関する基本方針や選抜・実施方法等を協議する「入試連絡協議会」、各年度の出題科目ごとに出題及び採点を担う「入試出題採点委員会」、一般選抜の合格者を審議する「一般選抜査定委員会」が実務を分担している。また、博士課程前期課程・博士課程後期課程については、各研究科の研究科委員会で入学試験に係る事項を審議している。

「大学案内」「学部案内」「入試ガイド」は、いずれも大学ホームページからデジタルパンフレットの閲覧が可能であり、「大学院入試要項」は大学ホームページからのダウンロードが可能となっている。また、授業その他の費用や経済的支援に関する情報についても、大学ホームページで公表している。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大時には、オンラインでの入学試験の実施をとりいれ、試験会場、監督者、入試本部での対応等を定めるなどの工夫を講じた。また、合理的配慮が必要な入学希望者に適宜措置を講じるなど、必要な取り組みを行っている。

以上のことから、「入試委員会」のもと全学協力態勢での入学試験及び入学者選抜の実施体制を設け、学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度を整備し、入学者選抜を公正に実施している。

③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

学部の入学定員に対する入学者数比率及び収容定員に対する在籍学生数比率は、いずれも適正に管理している。ただし、年度によっては、入学定員を超える、あるいは、入学定員を下回る学科もあるため、適切な管理に努められたい。また、法学部国際ビジネス法学科では、収容定員に対する在籍学生数比率が高いため、適正な定員管理に向けて改善が求められる。

大学院の定員管理については、博士課程前期課程・博士課程後期課程ともに、研究科ごとにばらつきが生じており、文学研究科（博士課程前期課程）、コミュニティ福祉学研究科（博士課程前期課程）、法学研究科（博士課程後期課程）、現代心理学研究科（博士課程後期課程）では、特に収容定員の未充足が見られるため、入学者の確保も含めて改善が求められる。なお、入学定員の見直しのほか、大学院の学生募集を強化すべく、説明会などの広報活動及びその効果の検証を行

っている。

以上のことから、定員を設定し、学生の受け入れを行うとともに、収容定員に基づき適正な学生数の管理に努めている。ただし、一部の学部や研究科においては、定員超過や未充足が見受けられるため、改善が求められる。

④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

学生の受け入れに係る適切性の点検・評価は、全学内部質保証推進組織の各合議体において行っており、例えば、定員変更を希望する学部・研究科の点検・評価の結果に基づき「部長会」での協議を経て総長が決定し、2018年度以降、学部・研究科において入学定員を変更している。また、「教育改革推進会議」から学生の受け入れ方針を含む3つ方針の点検・評価を各学部・研究科に依頼して確認しているほか、入学試験制度や入学者選抜の実施体制については、「入試委員会」の下部組織である「入試連絡協議会」で点検・評価している。さらに、「自己点検・評価運営委員会」で毎年度、全学的な点検・評価を行い、「立教大学諮問委員会」において、外部の有識者からの意見も聴取している。なお、大学教育開発・支援センターが成績追跡調査の結果を分析し、例えば、法学部や現代心理学部では、その結果や入学後のGPAの推移等に関するデータを基礎として、指定校推薦の見直しを行っている。

点検・評価の結果に基づく改善・向上については、「自己点検・評価運営委員会」での点検・評価に基づき、「教育改革推進会議」を通じて、各学部・研究科に修正を依頼している。また、入学希望者に求められる水準等の判定方法については、毎年、各学部・研究科での検討を踏まえて「入試委員会」で見直しており、例えば学生の受け入れ方針に英語の4技能の判定方法について明示するよう改善を図っている。そのほか、各学部・研究科での取り組みとして、現代心理学部心理学科では、学部独自の調査の分析結果を受けて2023年度の入学試験から自由選抜入試で筆記試験を導入することとし、異文化コミュニケーション研究科では、入学後の大学院学生の学びの進捗に照らして、検討課題となっていた筆記論述試験を2020年度から取りやめ、代わりに面接試験の時間を拡大し、研究計画書の内容や専門分野の基礎知識等についての質疑応答を集中的に行うよう変更している。

以上のことから、学生の受け入れの適切性を点検・評価し、改善・向上につなげている。なお、一部の学部・研究科で定員管理に課題が見受けられるため、今後も適切性を検証し、全学的な検討のもと改善に取り組むことを期待したい。

<提言>

改善課題

- 1) 法学部では、国際ビジネス法学科で収容定員に対する在籍学生数比率が1.26と高いため、学科の定員管理を徹底するよう改善が求められる。
- 2) 収容定員に対する在籍学生数比率に関し、博士課程前期課程では文学研究科で0.45、コミュニティ福祉学研究科で0.38、博士課程後期課程では法学研究科で0.11、現代心理学研究科で0.21と低いため、大学院の定員管理を徹底するよう改善が求められる。

6 教員・教員組織

<概評>

- ① 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

2014年度に「教職員組織の多様化に向けた諸施策ワーキンググループ」において、「大学として求める教員像および教員組織の編成方針」を定めている。その後、「部長会」において研究を念頭に置いた表現を加えたほか、「立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言」を踏まえ、教員・職員・学生による協働の表現を加えている。

上記の方針を踏まえ、各学部・研究科における「求める教員像および教員組織の編成方針」を定めている。いずれも大学としての求める教員像を踏襲しつつ、各学部・研究科の専門分野等を反映しており、例えば、コミュニティ福祉学部では「『いのちの尊厳のために (Vitae Dignitati)』の基本理念に立ち、教育研究を通じて、コミュニティを基盤とした福祉社会構築に貢献できる人材を養成するにふさわしい能力を有する者」を加えている。また、経営学部では、国際認証の取得に向け、国際基準に基づく教員に求められる能力等を毎年確認している。

「大学として求める教員像および教員組織の編成方針」及び学部・研究科における「求める教員像および教員組織の編成方針」は、いずれも大学ホームページにて公表している。

以上のことから、大学としての「求める教員像および教員組織の編成方針」を定め、これを踏まえて各学部・研究科の教員組織の編制方針を設定し、適宜見直し等を行い、適切に公表している。

- ② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

各学部・学科、各研究科・課程ともに、大学及び大学院設置基準で求める教員数を満たしている。また、外国語教育センターやGLAPにも専任教員を配置している。なお、大学の教員組織の編制方針に基づき、必要教員数について全学で議論して「教学条件」を定め、「部長会」で合意を図っている。あわせて、各学

部・研究科の裁量を認める「学部管轄人件費制度」により、各学部・研究科の特色に応じた教員組織を編制している。

教員構成に関して、女性教員の積極的な採用に向けたポジティブ・アクションの実施にあたっての条件や留意点を「部長会」で共有し、文学部及び理学部ではこれを活用しており、異文化コミュニケーション学部では、若手教員の採用を進めるとともに、キリスト教学研究科や外国語教育センターでは、年齢構成や外国籍保有者、海外で学位を取得した教員の採用を行っている。なお、全学的な数値で見ると、教員の多様性に関する目標値には達していないものの、女性及び若手研究者については目標値に近いものとなっている。

大学の教員組織の編制方針において、主要授業科目については原則として教授又は准教授が担当することを定め、各学部・学科でこれに基づき教育課程にふさわしい専任教員を配置している。ただし、必修科目の専任担当率が低い学部・学科が散見されるため、今後の基幹教員制度の導入に併せて、改善に向けた自主的な取り組みを期待したい。大学院では、「立教大学大学院担当教員資格基準及び資格審査手続規程」に則り、原則として教授及び博士号を有する者を研究指導教員に配している。

また、教育を補助するため、2016年度に「TA・SA制度」を改正し、スチューデント・アシスタント（以下「SA」という。）に加え、ティーチング・アシスタント（以下「TA」という。）をJunior TA、Middle TA、Senior TAに区分し、資格要件・業務内容を明確化している。さらに、オンデマンド授業等に必要となる授業等補助業務に従事する役割として、教育コーチを置いている。

なお、全学共通カリキュラム運営センターや「しょうがいしゃ（学生・教職員）支援ネットワーク」に代表されるように、組織上、教員と職員の協働・連携について担保している。

以上のことから、教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているといえる。

③ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

教員の採用及び昇格は、「立教大学教授・准教授任用規程」等の大学が定める職位ごとの任用規程に基づき、各学部・研究科からの発議を受け、「部長会」での了解を得て、各学部・研究科の教授会・研究科委員会で行っている。各学部・研究科での審議の後、総長が決定し、理事会による承認を経る手続となっている。

教員の募集は、全学統一の書式で行っており、募集情報は国立研究開発法人科学技術振興機構が運営するウェブページ等により周知を図っている。また、専任教員の任用・昇格、特別専任教授の採用については、大学が定める任用規程及び教授会規程等及び各学部・研究科が定める内規に基づき、厳格な手続で実施して

いる。任期に定めのある特任教授及び特任准教授については、「立教大学特別任用教員任用規程」及び細則に基づき採用している。なお、2023年度より定年を超えた教員の任用を可能とする「特別専任教授制度」を設けている。

以上のことから、教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているといえる。

④ **ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。**

大学全体として、ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）に関する活動は、「ファカルティ・ディベロップメントに関する規程」に基づいて行っている。なお、同規程において、スタッフ・ディベロップメント（以下「SD」という。）も含む概念としてFDを定義している。FD活動は、大学教育開発・支援センターが各種の企画を開催し、その内容はニューズレターによって共有を図っている。例えば、2023年度には専任教員と職員を対象に、AIツールに関する教育プログラムを実施している。そのほか、大学教育開発・支援センターが「学生による授業評価アンケート」を毎年実施し、結果をまとめた報告書を大学ホームページで公表するとともに、各種の調査結果を「教育改革推進会議」で共有している。

また、教育改善以外の活動の活性化を図るFD活動については、研究活動行動規範、研究活動ガイドや資金支給といった措置を講じている。例えば、研究倫理に関するAPRIN eラーニングプログラムは2023年度の全ての対象者が受講しているほか、ハラスメント防止対策に関するオンライン又はオンデマンドの研修会について毎年対象層を変えて行っており、2022年度には専任教員を対象として実施している。そのうえで、各学部では、ゼミナール科目やオンライン授業に関する会議や研修会の開催、ハラスメント、障がいを持った学生に対する授業実施方法に関する研修会など各学部・研究科のニーズに合わせたFD活動を行い、毎年度「FD展開状況報告」にとりまとめている。各研究科においても、「各学部等・研究科のFDガイドライン」に基づいて、修士論文作成や学会発表に向けた取り組みなど、学習成果の把握に向けた活動が行われている。

教員の教育研究の業績に関し、教育実践に顕著な成果を上げた教員の功績を表彰する制度として「教育活動特別賞」を創設している。また、教員の研究活動等の成果物は、機関リポジトリ（RIKKYO Roots）において公表している。

なお、TAを含む教育補助者への研修等として、『TA・SA HANDBOOK 2023』を日本語と英語で作成・配付しているほか、「TA・SA業務説明会」を開催している。

以上のことから、FD活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているといえる。

⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

教員組織の適切性の点検・評価は、全学内部質保証推進組織を構成する「部長会」「教育改革推進会議」「自己点検・評価運営委員会」で行っている。「部長会」では教員組織の編制について包括的に点検・評価し、「教育改革推進会議」では各学部・研究科に対して「FD展開状況報告」の提出を求め、大学教育開発・支援センターが行う「学生による授業評価アンケート」等の調査結果を共有している。そのうえで、「自己点検・評価運営委員会」では、学部・研究科等に自己点検・評価の結果の提出を求めるとともに、本協会の定める大学基準に照らして求めている事項や他大学等の情報等を報告し、課題を共有・検討している。また、各学部・研究科では、「FD委員会」及び「自己点検・評価委員会」において、教員組織の適切性を点検・評価している。そのほか、中期計画に定める事業等については、担当副総長が主管（事務）部局とともに、年に2回の点検・評価を行い、「大学中期計画・事業計画管理委員会」でその結果をとりまとめ、その結果を「部長会」及び「自己点検・評価運営委員会」に報告している。

「自己点検・評価運営委員会」にて全学的に点検・評価を行った結果に基づき、大学設置基準の改正を踏まえ、大学全体及び各学部・研究科の「求める教員像および教員組織の編成方針」の改正を行ったほか、女性研究者の採用に関するポジティブ・アクションを推進する活動を展開している。さらに、「部長会」での検討を経て定年を超えた教員の任用を可能とする「特別専任教授制度」を導入し、2023年度より運用している。

以上のことから、教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行い、改善・向上に向けて取り組んでいる。

7 学生支援

<概評>

① 学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生支援に関する大学としての方針を明示しているか。

大学の使命及び教育理念を実現するため、「立教大学学生支援の方針」を策定している。この方針では、全ての学生が学士課程教育で導入している3つの期（導入期、形成期、完成期）の各期に応じて、自ら成長できるように支援することを基本的な考え方（RIKKYO Learning Style）とし、「生活支援」「修学支援」「キャリア支援」の3つに区分して更に詳細な方針を設定している。また、障がいのある学生への支援に関する全学的な方針として「立教大学しょうがい学生支援方針」を策定し、支援体制等について「立教大学しょうがい学生支援基本規程」

を整備している。さらに、パワー、アカデミック、アルコール等の大学内外において起こり得るあらゆるハラスメント問題を排除し、防止することを目的として「キャンパス・ハラスメント防止宣言」を策定し、学生が学習に専念し、安定した生活を送ることができる環境づくりに取り組んでいる。あわせて、2021年に就任した総長が「立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言」を公表し、キャンパス・ハラスメントに対し、断固たる態度で排除し、防止する意思を明確に示している。

これらの方針等は、大学ホームページで広く公表しているほか、学生向けのポータルサイト「RIKKYO SPIRIT」を通じて教職員・学生等への共有を図っている。

以上のことから、学生支援に関する大学としての方針を適切に定め、学内構成員及び社会に対して明示しているといえる。

② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

「学生支援の方針」に掲げる「生活支援」「修学支援」「キャリア支援」を実現するため、教務部、図書館、学生部、キャリアセンター、保健室、ボランティアセンター等の組織を整備している。なお、それらの各組織の業務分掌等を「学校法人立教学院職位職制規程」に規定している。

「生活支援」に関し、学生に対する経済的支援において、大学ホームページや学生向けのポータルサイト「RIKKYO SPIRIT」により、対象別（入学前の学生、学部学生、大学院学生）に奨学金及び経済的支援制度を整備し、公表している。なお、大学独自の奨学金は全て給付型奨学金として運用しており、学部独自の奨学金も設けている。そのほか、学校法人として障がいのある学生、生徒及び児童を対象とした「立教学院竹田鐵三神父奨励金」を設けている。

学生の心身の健康を守るため、学生部（学生相談所を含む）、「しょうがい学生支援室」及び国際センターが連携して学生からの生活相談に対応する体制を整備している。「しょうがい学生支援方針」に基づき、事務部局及び学部・研究科等で構成する「しょうがいしゃ（学生・教職員）支援ネットワーク」を組織し、全学的に障がいのある学生及び教職員に対する支援の充実に努めているとともに、学生の健康管理や健康相談等の対応については、学生部と保健室等が連携して取り組んでいる。さらに、ハラスメントの防止に向けて、人権・ハラスメント対策センターを設置し、全学的に学生、教職員の人権意識を高めるための講演会や勉強会を開催しているほか、学生等からの相談等に対応している。

「修学支援」に関しては、1年次の学生を中心にきめ細かい学習支援の一環として、全学部にアカデミックアドバイザーを配置し、学生に対して学習上の指導・助言・情報提供等を行っている。なお、各学部において、毎年度、休学中や

留年中を含む低単位取得者を対象にアカデミックアドバイザー等が面談を行い、面談結果及び各学部等で実施した改善策とその効果等を「全学教務委員会」で共有し、退学の予防に努めている。また、博士課程後期課程の学生が図書館の利用法やレポート・論文の作成について助言を行う「ラーニングアドバイザー制度」も整備している。さらに、外国人留学生を対象に「立教大学外国人留学生チューター制度」を整備し、留学生の専攻分野に関連のある学部学生及び大学院学生が学習・研究上の支援を行うほか、修士号を取得した大学院学生等が卒業論文や修士論文等の文章指導を行っている。くわえて、日本語を母語としない学生をサポートするため、日本語教育を専門とする講師及び学生アドバイザーが日本語についての相談を受け付ける体制を整備している。

「キャリア支援」に関しては、キャリアセンターを中心に1年次から参加可能な多彩なプログラムを展開し、就職だけでなくその後のキャリアまでを見通した支援を実施している。これと並行して、各学部において専門科目の中にさまざまなキャリア関連科目を配置し、学部の専門性を生かした支援を展開しており、入学後の早い段階から自分と向き合いキャリアを形成していく力を養う機会を提供している。各学部に学部キャリアサポーターを配置し、学部とキャリアセンターが連携してそれぞれの学部の特性に応じたキャリア支援や就職支援に取り組んでいる。また、多様性の観点から、留学生や障がいを持った学生に対して、各学部・研究科のほか、キャリアセンター、国際センターや「しょうがい学生支援室」等が連携してさまざまな支援策を講じている。なお、博士課程後期課程の学生に対し、学識を教授するために必要な能力を養うため、他大学で実施されているプレFDに関する情報等を全研究科に通知しているほか、Senior TA を制度化し、自らが有する学識を教授するために必要な能力を培う機会を設けている。

そのほか、2022年からは「RIKKYO Future Project」を立ち上げ、学生が学生生活支援協議会と協働し、学生・教員・職員がチームを編制してよりよい大学の未来を創り上げるために取り組んでいる。さらに、ボランティアセンターに学生コーディネーターを配置し、学生の視点を生かしたボランティア活動の支援を行うなど、学生が主体的に参加する多様な機会を提供している。

以上のことから、学生支援に関する方針に沿った学生支援を適切に行っているといえる。

③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

学生支援の適切性については、中期計画等を踏まえて、全学内部質保証推進組織を構成する「部長会」「教育改革推進会議」「自己点検・評価運営委員会」を中心に、各学部・研究科や学生支援に関する業務を所掌する部局ごとに点検・評

価している。そのほか、「学生生活支援協議会」や「しょうがいしゃ（学生・教職員）支援ネットワーク会議」「ボランティアセンター運営協議会」等の学生支援に関する各会議体において適宜業務の見直しを行っており、各会議体に参加している「部長会」の構成員が必要に応じてその結果を「部長会」に報告し、全学的に情報を共有している。

各部署等が実施した点検・評価の結果に基づき、外国人留学生に対する授業料減免制度の見直しのほか、「授業のユニバーサルデザイン化・ハンドブック」の作成、池袋キャンパスのAED増設やユニバーサルデザイン自動販売機の設置等の取り組みを行っている。

以上のことから、学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行い、改善・向上に取り組んでいるといえる。

8 教育研究等環境

<概評>

① 学生の学習や教員による教育研究活動に関して、環境や条件を整備するための方針を明示しているか。

「施設・設備の整備に関する方針」「図書館の整備に関する方針」「情報環境の整備に関する方針」「教員の教育研究環境等の整備に関する方針」の4つの方針で構成する「教育研究等環境整備方針」を定め、各方針に係る規程・ポリシー等を整理して示している。例えば、「施設・設備の整備に関する方針」には、「教育研究活動を円滑に推進するために、十分な施設・設備を整備するとともに、バリアフリー・ダイバーシティにも配慮した安心安全なキャンパスを整備すること」、「学生・教職員が快適に過ごせるアメニティ空間の創出と合わせ、各種災害対策・カーボンニュートラル達成に向けた整備を行う」ことを定めている。また、総長のもとで教育研究等環境に係る活動を含む「大学運営の基本方針」及びそれに基づく中期計画を策定している。なお、2024年度からはバリアフリーやダイバーシティ、カーボンニュートラル、電子リソース等の要素を含む新型コロナウイルス感染症の流行の経験等を踏まえたそれぞれのキャンパスメーキング基本構想の策定、学術情報のオープン化に対応した方針の策定など、最新の状況を反映している。

教育研究等環境の整備に関する方針は、「大学運営の基本方針」とともに、大学ホームページにて公表している。

以上のことから、学生の学習や教員による教育研究活動に関して、環境や条件を整備するための方針を明示している。

② 教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地及び校舎を有し、かつ運動場

等の教育研究活動に必要な施設及び設備を整備しているか。

大学設置基準上必要となる校地及び校舎面積を有し、校舎・施設を含め全ての建物の耐震対策を講じている。池袋キャンパス、新座キャンパス、富士見総合グラウンド等の校地を有しており、総務部施設課で2035年度までの設備更新等に関する「中長期修繕計画」を策定し、これに基づき計画的に維持及び管理を実施している。なお、人工知能科学研究科やスポーツウエルネス学部の新設に伴う施設・設備等を適切に整備している。

「情報戦略」に基づき、教育研究活動の基盤として「立教バーチャルキャンパス (Rikkyo V-Campus)」の整備・運用を進め、ネットワーク環境や情報通信技術 (ICT) 等に係る機器、備品等を整備している。また、運用・体制を定めた「情報セキュリティ対策基本規程」(情報セキュリティポリシー)を策定し、システムを導入するなどセキュリティリスクへ適切に対応している。さらに、授業支援システム「Canvas LMS」に情報倫理に関するeラーニング教材を設けているほか、学生用ガイドブックに「ネットでのルールとマナーについて」を掲載するとともに、「事務用PC・事務系LAN利用ガイドライン」等を整備し、全ての学生・教職員への情報倫理の確立に向けた知識理解の向上を図っている。

障がいのある学生・教職員の学生生活上又は職務上の不便を軽減するため、関連する大学内各組織間の連絡及び調整を図ることを目的とした「しょうがいしゃ(学生・教職員)支援ネットワーク」を設置し、学生の状況やニーズに合わせて体制を整え、要請に合わせて整備を行っている。また、ボランティアセンターでは、多様な手段によるバリアの解消を目指す取り組みとして「バリアフリープロジェクト」を開始し、参画する学生を公募して教職員と学生がともに検討したうえで、実行・活動している。

学生向けのポータルサイト「RIKKYO SPIRIT」において、「施設利用」と題したページを設け、池袋キャンパス及び新座キャンパスの施設・備品等の貸出し、パソコン教室等についてわかりやすく公表している。学生の創造的・能動的な学習等ができるスペースとして、池袋キャンパスでは「ラーニング・スクウェア」のほか、「メーカー・ラーニング・commons」を設置し、新座キャンパスではグループ学習に適したエリア「しおり(新座図書館ラーニング・commons)」を図書館内に設置している。また、ICTを活用した学生の自主的な学習を促進するため、既述した授業支援システムやeポートフォリオシステム、言語学習に特化したeラーニングシステムを整備している。

以上のことから、施設・設備等の整備、管理及び教職員や学生の情報倫理の確立に関する取り組みを適切に行っているといえる。

③ 図書館、学術情報サービスを提供するための体制を備えているか。また、それら

は適切に機能しているか。

「図書館の整備に関する方針」に「立教大学蔵書構築方針」を定め、教育・研究・学習用図書、その他電子リソースを含む学術情報資料を整備すること、学習及び教育研究における多様なニーズに応えるために、非来館利用を含めた利用環境を整備して情報提供サービスを推進することを掲げている。また、蔵書構築方針に収集方針、保存方針等を定め、これに基づき学術情報資料の整備を行っている。

2018年度以降、毎年度図書・電子ジャーナルの冊数・種類を増加し、質・量ともに十分な蔵書を有している。また、図書館ウェブページにデータベースリストを掲載しているほか、国立情報学研究所の各種サービスや「山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム」に参加し、連携する他大学の図書館の利用を可能としている。さらに、「立教大学学術リポジトリ運用指針」に基づき、機関リポジトリ「RIKKYO Roots」を運営・公開している。図書館には、概ね適切な座席数を設け、業務委託も含めて専門的資格を有する専任職員を配している。

図書館において、レポート作成セミナー、ラーニングアドバイザーによる相談のほか、レポート・論文作成相談や課題図書（リザーブブック）制度、情報リテラシー教育プログラム等の多様な学習支援を展開し、学生の学びの促進を支援している。こうした取り組みにより、2022年度には入館者数が増加しており、利用促進の取り組みの効果が現れている。

以上のことから、図書館、学術情報サービスを提供するための体制を備えているとともに、それらは適切に機能しているといえる。

④ 教育研究活動を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

総長により、研究に対する大学の基本的な考えを含む「大学運営の基本方針」が示され、それに基づく中期計画を策定し、大学ホームページで公表している。同方針において、「研究活動の活性化」の項目で「教員に蓄積された知識、あるいは多様な探究心・問題意識を源泉とする研究に基づく専門的知見を、教育に反映・還元されることが重要である」とし、「研究者個人の創造的な研究活動のための環境整備を進めながら、重点領域研究の形成を進め、フラッグシップ研究領域や独創性のある学際的研究を全学的に推進」することを明示している。

個人の学内研究費・助成制度として個人研究費のほか、国際的な学術研究交流や出版への助成、学会補助等を設けている。また、各学部・研究科等の教育研究活動のために使用できる「学部管轄予算」を設け、教員のプロジェクト研究活動や附置研究所における研究の高度化を支援し、大学院学生の研究基盤整備のための資金も加えている。さらに、2017年度より「学術推進特別重点資金（立教SF

R) 」制度を設けており、申請時の研究計画遂行に直接必要となる経費を助成し、採択となった場合は学外研究費の申請義務を課している。科学研究費補助金助成事業については、申請のためのサポートプログラムとして説明会、採択経験者の講演、採択申請書閲覧サービス等を実施している。

研究室の整備については、2012 年度から教員各自の研究室とは別に、プロジェクト型研究を効果的に支援することを目的として、研究プロジェクト室を整備している。研究時間の確保、研究専念期間の保障等については、研究により専念できる環境を整備するため、既述の立教 SFR に「研究外部資金採択者支援資金」を 2017 年度から設け、ある一定の条件を満たす外部資金を獲得した研究者に対し「兼務教員人件費」等の研究費を付与し、業務負担等の軽減を図っている。

教育研究活動を支援するため、人的支援として、TA、SA、リサーチ・アシスタントのほか、教育コーチや教育研究コーディネーターを設けている。

以上のことから、教育研究活動を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているといえる。

⑤ 研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。

「教育研究等環境整備方針」において、「情報環境の整備に関する方針」「教員の教育研究環境等の整備に関する方針」を定め、これに関連する規程類として「研究活動行動規範」「研究活動における不正行為への対応に関する規程」「公的研究費の使用・管理に関する規程」等を整備している。

教職員については、「研究活動ガイド」「研究費ハンドブック」を作成・配付し、後者には不正防止計画や関連規程を掲載し、大学としての考え方を明示している。また、2014 年度に「不正防止計画推進本部会議」を設け、毎年度、APRIN e ラーニングプログラムの実施とその修了報告、研究倫理教育に係る取り組みについて報告をとりまとめ、共有している。さらに、研究倫理に関する学内審査機関として、「ライフサイエンスに係る研究・実験の倫理及び安全委員会」「研究活動行動規範マネジメント委員会」「利益相反マネジメント委員会」「安全保障輸出管理委員会」を設置している。特に、「研究活動における不正行為への対応に関する規程」に基づき、「研究活動行動規範マネジメント委員会」において、研究活動の不正行為、研究費不正等の調査等を行っている。

なお、研究費の不正使用（2019 年）のほか、研究活動上の不正行為（2023 年）を受け、コンプライアンス教育及び研究倫理教育の徹底、相談・通報窓口の周知、出張報告書等の提出等の再発防止策を厳格に講じている。

以上のことから、研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応している。

⑥ 教育研究等環境の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

教育研究等環境の適切性の点検・評価は、全学内部質保証推進組織を構成する各会議体で行っており、「自己点検・評価運営委員会」では大学基準に沿って2020年度、2022年度及び2023年度に実施し、「不正防止計画推進本部会議」では研究不正の防止や研究倫理教育等の点検・評価を行っている。さらに、「情報戦略委員会」「図書館運営委員会」等の教育研究等環境の整備に係る各種委員会において点検・評価を行い、各会議体の構成員に含まれる「部長会」の構成員又は総長室長等を通じ、必要に応じて「部長会」等にその結果を報告している。なお、中期計画の進捗状況について、担当副総長が主管（事務）部局とともに、年に2回、点検・評価を行い、「大学中期計画・事業計画管理委員会」でとりまとめ、その結果を「部長会」及び「自己点検・評価運営委員会」で報告している。

点検・評価の結果に基づく改善・向上として、大学図書館の機能拡充、研究所・研究センター等の再活性化、人文科学・社会科学を軸とした学術知共創の支援、キャンパス整備に向けた計画策定に取り組んでいる。例えば、新しい図書館のあり方に向けた構想のほか、2022年度には「池袋キャンパスメーキング基本構想」に基づき、2035年度までの「池袋キャンパス第一期整備計画」を策定している。また、2023年度から授業支援システム「Canvas LMS」を導入している。

以上のことから、教育研究等環境の適切性について点検・評価を行い、中期計画に基づく各種改善に取り組んでいるといえる。

9 社会連携・社会貢献

<概評>

① 大学の教育研究成果を適切に社会に還元するための社会連携・社会貢献に関する方針を明示しているか。

建学の精神や教育理念を継承した「立教大学の社会連携方針」を制定し、2021年度には「立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言」を公表している。同方針では、「教育と研究の成果を地域と社会に還元し」「社会的な価値の創造に貢献」しつつその連携が「教育と研究の在り方をさらに豊かなものにする」こと、「社会と連携するにあたり、政府、自治体、企業、そして国内外の諸団体や個人との交流を進め、本学がもつ知やネットワークを社会と共に活用するような仕組みづくり」を目指すことを示している。また、2011年度に「東日本大震災に伴う立教大学の復興支援活動指針」を策定し、同指針に基づき、被災地の復興支援を続けている。さらに、「大学運営の基本方針」の「社会連携／社会貢献」項目において、当該大学における社会連携、社会貢献を定義し、地域の自治体や大学・組織との連携を図ること、陸前高田グローバルキャンパスの有効活用等に取り組むこ

とを示している。

上記の「立教大学の社会連携方針」は、「大学運営の基本方針」とともに、大学ホームページにて公表している。

以上のことから、社会連携・貢献活動に取り組むにあたって、建学の精神や教育の理念、大学の目的を反映した「社会連携方針」を明確に定めており、建学の精神に基づき「立教ヒューマン・ディグニティ宣言」等を公表し、教育研究活動の成果を社会に還元することを明示している。

② **社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。**

地方自治体との連携については、キャンパスの所在する東京都豊島区、埼玉県、埼玉県新座市のほか、岩手県陸前高田市等と行っている。東京都豊島区と埼玉県新座市については、地域に所在する他大学も含めた包括的な連携を締結しており、総長や学生が直接首長と意見交換している。例えば、コミュニティ福祉学部では、自治体から依頼された課題に対して、学生がグループで取り組むなど、学生参画による地域連携を行っており、文学部では、「豊島こども大学」を開設し、学生主導で地域を知る、創る、楽しむことを目的に小学校の中・高学年を対象とするプログラムを提供している。さらに、異文化コミュニケーション学部では、日本語教員を目指す学生・大学院学生が区内在住の日本語を母語としない住民への日本語レクチャーや留学生の生活支援を行っている。

また、正課外教育プログラムの林業体験を通じて2003年から友好関係にあった岩手県陸前高田市を2011年の東日本大震災以降、「重点支援地域」とし、被災地支援を展開している。具体的には、社会学部が交流による被災者の心のケアとともに、被災者からの聞き取りをもとに震災の記憶を経験的遺産としてアーカイブ化して保存することで後世に残し、地域の今日的課題解決に取り組むなど、広範な活動を行っている。さらに、2017年には東北地域の大学と共同で陸前高田グローバルキャンパスを開設し、「スーパーグローバル大学創成支援事業」の取り組みの一部に組み込むことで、国内外の多くの研究者も利用する拠点となっている。

これらの地域貢献を実施するにあたり、全学共通科目に「立教サービ斯拉ーニング（R S L）」科目群を設け、講義系科目でシティズンシップや公共的な課題解決のあり方を学び、実践系科目では国内外のフィールドワークで地域課題の解決に取り組み、理論的な知識の導入等の事前学習、体験学習、振り返りの学問的な意義を考える事後学習を通じてさまざまな社会的課題を題材とした体験学習を行っている。学生は「立教サービ斯拉ーニング（R S L）」で学んだことを上記のような地域連携・地域貢献の活動で実践し、更にボランティアのあり方や課題等を学びたい場合には「立教サービ斯拉ーニング（R S L）」の該当する科目

を履修するといった循環を構築し、学生の学びと地域貢献を両立しており、地域課題の解決・活性化に大いに貢献する有意な取り組みとして高く評価できる。

そのほか、2003年度にボランティアセンターを設立し、学生のボランティア先や「立教サービスラーニング（RSL）」科目の受け入れ先の開拓に努めている。こうした取り組みを踏まえ、2022年度には、地域の企業や学習支援団体におけるボランティアの受け入れや「立教サービスラーニング（RSL）」科目における実習の受け入れが実現している。「ボランティアセンター運営協議会」に卒業生や地域で活動する外部有識者を加え、意見聴取を行っている。また、産官学連携として、民間企業、政府機関、地方公共団体等からの委託を受けての取り組みのほか、理学部、観光学部、コミュニティ福祉学部、ビジネスデザイン研究科、人工知能科学研究科において、企業等との共同研究に取り組んでいる。

以上のことから、「社会連携方針」に基づき、正課教育と連動させて多様な地域連携・地域貢献、産官学連携に関する取り組みを積極的に行っている。

③ **社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

社会連携・社会貢献の適切性の点検・評価については、全学内部質保証推進組織を構成する各合議体を通じて行っており、「自己点検・評価運営委員会」では、大学基準に基づく評価項目で毎年度点検・評価を行い、2020年度、2022年度及び2023年度に「重点評価項目」として社会連携・社会貢献を設定し、学内の関連部署に点検・評価を求めた。また、各学部・研究科においても社会連携に関することから、教育課程・学習成果の項目で点検・評価している。中期計画に基づく地域連携の強化及びSDGsの連携強化については、担当副総長と主管（事務）局が進捗状況を年に2回、点検・評価し、「大学中期計画・事業計画管理委員会」でとりまとめ、その結果を「部長会」及び「自己点検・評価運営委員会」で報告している。

点検・評価の結果に基づく改善・向上として、豊島区文化観光課や埼玉県庁からの依頼に基づく教育と連動した取り組み、陸前高田グローバルキャンパスでの取り組みについては、上述のような成果に結びついている。そのほか、行政と複数の大学による協働講座「としまコミュニティ大学」における「立教大学SDGs講座」の開講等につながるなどの発展に至っている。

以上のことから、社会連携・社会貢献の適切性を点検・評価している。また、社会連携・社会貢献に係る各事業・取り組みの改善・向上に取り組んでいる。

<提言>

長所

- 1) 東京都豊島区や埼玉県新座市との連携における各学部の専門を生かした地域貢献のほか、岩手県陸前高田市における被災者支援や震災の記憶を経験的遺産としてアーカイブ化する活動に加え、東北地域の大学と共同で陸前高田グローバルキャンパスを開設し、震災研究の拠点として地域課題に取り組んでいる。これらの活動への学生参画及び地域貢献を通じた学びを促進させるため、全学共通科目に社会貢献の基本的な知識や実践的な体験学習を含めた体系的な科目群として「立教サービスラーニング（RSL）」を設け、実践的な学びと社会貢献活動の循環を構築しており、建学の精神を体現し、地域課題の解決・活性化に大いに貢献する有意な取り組みとして評価できる。

10 大学運営・財務

(1) 大学運営

<概評>

- ① 大学の理念・目的、大学の将来を見据えた中・長期の計画等を実現するために必要な大学運営に関する大学としての方針を明示しているか。

総長の在任期間に合わせて大学全体のマネジメント方針を「大学運営の基本方針」として策定し、同方針に基づき5年間の中期計画を策定している。同方針には、方針の位置づけ、方針の理念・目的、重点政策に係る説明のほか、「教育発展」「研究活動の活性化」「学生支援」「社会連携／社会貢献」「国際化」「入試」「広報・ブランディング」及び「大学運営基盤の整備」の項目より、大学が社会から期待されている機能・役割、当該大学の特色ある取り組みを網羅して示している。「大学運営基盤の整備」では、「ガバナンス強化・危機管理体制の充実」「教学運営・支援体制の整備」「財政運営」「キャンパスの発展・整備」「情報戦略の推進」「創立150周年記念事業の推進と募金活動への貢献」の項目に分けて、加速度的に変化する大学を取り巻く環境に対応し、大学の質を対外的に保証するとともに、社会からの要請に応えるための大学運営に関する基本姿勢を示している。

同方針は、イントラネットを通じて学内の教職員へ公開するだけでなく、冊子体としても配付するなど、全学的な共有を図っている。また、大学ホームページを通じて学外に対しても広く公開している。

以上のことから、大学運営に関する大学の方針を適切に明示しているといえる。

- ② 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

学校法人の運営に関して、寄附行為及び「学校法人立教学院寄附行為細則」に

より理事会や評議員会に関する事項等を規定し、さらに、「学校法人立教学院職位職制規程」により理事長や常務理事・事業理事等の法人役員及び総長や副総長等の大学の役職員等の各職位の責任及び権限を明確にし、業務遂行の円滑かつ能率的運営を図るために必要な事項を規定している。

総長の役割については、「学校法人立教学院職位職制規程」に「大学を代表し、学長として公務全般を統括する」と規定しており、寄附行為により、総長は、「立教学院本部職員及び立教大学教職員の選挙に基づき、理事会が任命する」こととしている。なお、総長は、理事として理事会の意思決定に参画するとともに、「部長会」「大学院委員会」「教育改革推進会議」「国際化推進会議」の議長となるほか、副総長、学部長、研究科委員長等の任命権等を有している。また、同規程には、教授会等の教学に関する機関及び学部長をはじめとする各機関の長の権限等を規定している。教育研究に係る重要事項については、審議事項に応じて、総長をはじめとした執行部と全ての学部長等で構成する全学内部質保証推進組織の8つの合議体で審議することとしている。

有事の際に迅速かつ適切に対応することを目的として、「学校法人立教学院危機管理基本規程」を定めるとともに、火災の未然防止及び地震、台風等の災害による被害の低減等を目的として「学校法人立教学院防火・防災管理規程」等が整備されており、「危機管理基本マニュアル」や「地震・火災リスク対応マニュアル」、キャンパスごとの「緊急時マニュアル」をイントラネットで公開し、必要に応じて内容の見直しを行いながら危機管理にあたっている。なお、学生を含めた「緊急連絡システム」を構築するとともに、「大地震対応マニュアル」を学生向けのポータルサイト「RIKKYO SPIRIT」に掲載して災害に備えている。

以上のことから、大学運営に関する方針に基づき、総長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示し、それらに基づいた適切な大学運営を行っているといえる。

③ 予算編成及び予算執行を適切に行っているか。

「部長会」で総長が翌年度の予算編成方針を提示し、同方針に基づき各学部・研究科・事務部局が予算申請を行っている。予算編成にあたっては、財務担当副総長、財務部長、財務課長等が事前に各部局長から次年度の新規事業、大規模な予算申請に関するヒアリングを実施し、査定する際の参考にしている。申請された予算は、財務課が前年度の執行状況を踏まえ、その内容や金額の妥当性を確認し、各部署にヒアリングしたうえで査定している。新規案件や大型案件は、総長室と財務課が協議・調整を重ね、大学全体の予算案を作成しており、最終的には「部長会」及び評議員会の議を経て、理事会で決定している。

予算の執行状況については、財務課において毎月集計表を作成して予算や前年

度決算との対比等分析を行い、特殊要因等があればその旨を財務部長、財務担当理事に報告することで、決算への影響を早期に把握するよう努めている。また、決算見通しを年2回作成し、分析結果を理事会に報告し、必要に応じて予算執行の抑制が図られている。なお、経理については、「学校法人立教学院経理規程」及び「学校法人立教学院経理実施要項」に基づき行っている。

以上のことから、予算編成及び予算執行を適切に行っているといえる。

④ 法人及び大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な事務組織を設けているか。また、その事務組織は適切に機能しているか。

法人及び大学の業務を円滑かつ能率的に運営するため、大学に総長室、教務部、図書館、学生部等を置くとともに、業務内容の多様化及び専門化に対応するため、各種センター組織（キャリアセンター、入学センター、リサーチ・イニシアティブセンター等）を置いているほか、法人本部の事務組織として、財務部、総務部、人事部、情報企画室、内部監査室、広報室等を設置している。なお、「学校法人立教学院事務部局職務権限規程」及び「学校法人立教学院職位職制規程」を整備し、職務権限の定めるところによる業務処理の円滑化に加え、責任体制や各職位の責任・権限、諸関係の明確化を図っている。

専任職員の採用については、「組織の使命・目標を達成するために、マネジメント能力やリーダーシップを発揮できる職員」等の6項目を示した「求める職員像」を定め、事務主管者会議で募集要項等を確認し、採用活動を行っている。また、職員の昇格については、「学校法人立教学院職員昇格規程」に基づき行っている。組織目標の達成と組織の活性化に向けて、「職務遂行力評価制度」や「目標管理制度」を導入しており、これらの制度に基づき実施した評価結果を昇格・昇進、研修会への派遣、異動・配置等に活用するとともに、賞与に反映している。なお、事務職員の人員配置については、常務理事会及び「事務主管者会議」を中心に、毎年度、業務内容の検証を踏まえた配置計画を確認し、組織の活性化及び人材育成を目的として定期的に異動を実施している。

教職協働に関し、「部長会」等の全学的な合議体に事務職員が正規の構成員として参画しているほか、各合議体を担当する事務局を定めるなど、教員と職員が連携する体制を整備している。なお、中期計画で掲げる各項目について、推進責任者（副総長等の執行部）が主管部局の職員と協議して具体的な内容を策定するなど、大学執行部と職員の連携関係も担保している。

以上のことから、法人及び大学に関する業務等を行ううえで必要な事務組織が適切に機能しているといえる。

⑤ 大学運営を適切かつ効果的に行うために、事務職員及び教員の意欲及び資質の向

上を図るための方策を講じているか。

大学を取り巻く環境の変化と高度化・複雑化する課題に対応していくことのできる職員組織を実現するため、「立教大学におけるSDの実施方針・計画」を策定し、大学運営に必要なSDに取り組んでいる。なお、同実施方針・計画については、大学ホームページで公表している。

事務職員に対しては、「資格等級研修」「短期海外視察研修」「目的別研修」「自己啓発研修」等のプログラムを体系的に整備し、組織的に実施している。2016年度から、部署を横断した職員による自発的なプロジェクトチームにおいて、業務改善・業務改革につながる問題を解決することを自発的に学ぶSDプログラム「Rikkyo Cross-functional Active Project (R-CAP)」を開始し、2019年度には、事務職員が全学横断的な重要課題の戦略立案、解決策の提案を目指す「立教・クロス・ファンクショナル・チーム (RCFT)」を設置し、「人事政策の再構築」「ブランド戦略の構築」「国際化戦略の構築」の3つのテーマについて取り組んでいる。これらの取り組みは、「働き方改革推進プロジェクト」へと継承され、同プロジェクトで検討した内容を踏まえ、働き方改革に係る具体的な施策の実施に結びついている。

また、全教職員を対象として大学教育開発・支援センター、人権・ハラスメント対策センターのほか、「しょうがいしゃ（学生・教職員）支援ネットワーク会議」等によるシンポジウムや研修会等を実施している。各学部においても、前述のセンター等と連携してワークショップ等を行っている。

以上のことから、事務職員及び教員の意欲及び資質向上を図るための方策を講じているといえる。

⑥ 大学運営の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

寄附行為、「学校法人立教学院監事監査規程」に基づき、常任を含む監事による監査及び会計監査人による財務監査を実施している。なお、寄附行為細則に基づき、評議員会に「監事候補者選考委員会」を設置し、監事候補者を選考したうえで、評議員による監事候補者に対する信任投票を実施するなど、監事選任の基準・プロセスの明確化を図っている。また、「学校法人立教学院内部監査規程」に基づき、内部監査室による業務監査、経理監査及び科学研究費助成事業等内部監査を毎年度実施している。監査結果については、理事会又は「不正防止計画推進本部会議」に報告するとともに、「内部監査における各部署に共通する主な指摘事項」を作成して「事務主管者会議」で共有している。「三様監査連絡会」を年に複数回開催し、監事と会計監査人、内部監査室等の連携強化を図っている。

大学運営の適切性の点検・評価について、「自己点検・評価運営委員会」で決

定した「重点評価項目」について総長室が各部局と連携して点検・評価している。なお、点検・評価にあたっては、関連する学内の方針との整合性や他大学の大学評価結果との現状比較など、学内外の状況に照らして行っている。また、点検・評価の結果に基づき、教育・研究に関する情報資産の更なる活用を目指して「情報戦略」を策定し、その推進を担う情報企画室を新たに設置するなど、必要に応じた改善・向上を図っている。

以上のことから、法令及び規程に基づき、監事監査及び内部監査等を実施し、適切な大学運営に取り組むとともに、大学運営の適切性について定期的に点検・評価を行い、改善・向上に取り組んでいるといえる。

(2) 財務

<概評>

① 教育研究活動を安定して遂行するため、中・長期の財政計画を適切に策定しているか。

2021～2024年度の4年間の大学運営における基本方針をまとめた「大学運営の基本方針」を策定し、これを具体化した計画として「大学中期計画（2023-2027年度）」を策定している。同計画において、法人運営の1つとして「安定した財政運営の強化」を掲げ、新たな投資を可能とする強固な財政基盤の構築に持続的に努めていくこと、財政健全化と教育研究活動の両立のために選択と集中による財政運営を行うことを示している。

また、「大学中期計画（2023-2027年度）」に応じた「大学財政計画（2023-2027年度）」を作成し、当該期間における事業活動収支や施設整備に関する資金計画の見通しを示している。この財政計画は、入学者数の見込みなど、シミュレーションにあたっての前提条件を毎年度更新し、定期的な見直しを行っている。くわえて、2024年度の「立教学院予算編成方針」において、大学を含めた各設置校の事業活動収支差額比率の目安を明示している。なお、大学中期計画の目標に「主な財務目標比率の指標設定と管理」を示し、計画策定後に生じた事業費の見直しを踏まえて具体的な指標の設定を検討していることから、財政計画に対応した指標等の策定が望まれる。

② 教育研究活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立しているか。

財務関係比率については、「理工他複数学部を設置する私立大学」の平均と比べ、事業活動収支計算書関係比率では、大学部門において、人件費比率が高く、2020年度以降教育研究経費比率が低い状況にある。事業活動収支差額比率は安定してプラスで推移しており、法人全体、大学部門ともに概ね平均を上回っており

立教大学

良好な状況にある。貸借対照表関係比率では、流動比率及び純資産構成比率が平均と比べ低い値となっているものの、経年的に改善傾向にある。また、「要積立額に対する金融資産の充足率」は高い水準にあり、かつ上昇傾向にある。これらの状況から、教育研究目的を実現していく上で必要となる財務基盤は確立しているといえる。

外部資金の獲得については、大学が設置するリサーチ・イニシアティブセンターのウェブページを積極的に活用することにより、外部資金獲得の支援強化に努めている。これらの支援により、2018年度以降の採択件数及び新規採択率、獲得金額で一定の成果を得ている。また、2024年度に創立150周年を迎えるにあたり、「立教学院創立150周年記念募金」を2018年度より開始し、寄付者への顕彰制度やインターネット募金等を実施し、目標金額を達成している。

以上

立教大学提出資料一覧

点検・評価報告書
評定一覧表
大学基礎データ
基礎要件確認シート
大学を紹介するパンフレット

その他の根拠資料	資料の名称
1 理念・目的	大学ホームページ（創立者と建学の精神）
	寄附行為
	学則（2023）
	大学院学則（2023）
	【大学全体】教育目的と各種方針（2023）
	大学ホームページ（大学運営の基本方針）
	【全学部・研究科】教育目的と各種方針（2023）
	【230622】＜教育改革推進会議＞各研究科3方針における教育研究上の目的の記載削除
	教育情報の公表（ウェブページ）
	【法人】ウェブページ（立教学院の情報公開）
	規程集
	大学ホームページ（立教大学の中期計画（2023～2027））
	【文学部】履修要項（2023）
	【文学部】大学ホームページ（R-Guide）
	【2023 シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】立教大学の歴史
	教育懇談会予約申込・開催一覧（2023）（SPIRIT）
	【230520】＜教育懇談会＞プログラム（首都圏2年次／池袋キャンパス）
	大学ホームページ（立教大学の教育の特長）
	大学ホームページ（学部学科の一覧）
	大学ホームページ（大学院研究科一覧）
	各学部、研究科ウェブページURL一覧
	大学ホームページ（デジタルパンフレット/Digital Brochure）
	大学ホームページ（オープンキャンパス）
	【230411】＜事務主管者会議＞2022年度入学アドバイザー活動実施報告
	大学ホームページ（入試ニュース「オンラインオープンキャンパスのコンテンツを公開しました」）
	大学ホームページ（入試ニュース「2021年度オープンキャンパス開催のお知らせ」）
	【230511】＜部長会＞大学中期計画・事業計画管理委員会報告
	＜自己点検・評価運営委員会＞大学評価（認証評価）指摘事項の改善状況（2018～2021）
	改善報告書検討結果（2017年度受審）
	事業計画書（2020）（法人全体）
	事業計画書（2021）（法人全体）
	事業計画書（2022）（法人全体）
中期計画（2023～2027）／事業計画（2023）（法人全体）	
2 内部質保証	大学ホームページ（立教大学の教育目的と各種方針）
	学内共有ドライブ関連資料
	全学内部質保証推進組織（概念図）
	部長会規程
	大学院委員会規程
	教育改革推進会議規程
	国際化推進会議規程
	全学共通カリキュラム運営センター規程
	自己点検・評価規程
	入試委員会規程
	不正防止計画推進本部規程

【170525】 <自己点検・評価運営委員会>2017年度以降の自己点検・評価に係る昨年度までとの相違点
【210719】 <部長会>「大学運営の基本方針」
【231019】 <教育改革推進会議>3方針およびカリキュラムマップの点検依頼（学部等用）
【231019】 <教育改革推進会議>3方針の点検依頼（研究科用）
【230126】 <教育改革推進会議>2022年度FD展開状況報告（依頼）
【221215】 <自己点検・評価運営委員会>2022年度自己点検・評価報告書
【180607】 <自己点検・評価運営委員会>大学評価結果（認証評価結果）の受領
<自己点検・評価運営委員会>諮問委員会からの御意見（2017～2022）
【221215】 <教育改革推進会議>3方針点検結果（学部及び研究科）
【231005】 <国際化推進会議>スーパーグローバル大学創成支援事業 令和5年度フォローアップ調査票の提出
<自己点検・評価運営委員会>自己点検・評価報告書（2018～2022/まとめ・概要）
<自己点検・評価運営委員会>諮問委員会への対応（2017～2022）
【230427】 <教育改革推進会議>2023年度教育改革推進会議の課題
【230413】 <国際化推進会議>2023年度国際化推進会議の課題
<自己点検・評価運営委員会>自己点検・評価報告書における報告を踏まえた全学的な課題（2018～2022）
全学内部質保証推進組織構成員一覧
大学教育開発・支援センター規程
自己点検・評価報告書（国際化編）
自己点検・評価報告書（国際化編）に係る根拠資料
【230406】 <部長会>各種委員会の部長会委員について
全学内部質保証推進組織に報告を行っている主な合議体（常設のものに限る）
【190718】 <教育改革推進会議>「学修成果の可視化に向けた検討ワーキンググループ」（要点+報告+別紙）
【200528】 <教育改革推進会議>全学的な学修成果項目の設定と全学の学位授与方針の改定
【180628】 <大学院委員会>大学院に係る課題
【210715】 <自己点検・評価運営委員会>2020年度自己点検・評価報告書を踏まえた全学的な課題
ファカルティ・ディベロップメントに関する規程
各合議体規程における「点検・評価」に係る規定
ワーキンググループ等一覧
<部長会>外国人留学生獲得に向けたワーキンググループ関連資料（2019）
大学ホームページ（新しい外国人留学生受け入れ制度「Rikkyo Study Project」）
<教育改革推進会議>ループリック活用関連資料
大学ホームページ（一般選抜（一般入試・大学入学共通テスト利用入試）の変更点について（2025））
【221110】 <部長会>しょうがい学生支援に関する検討ワーキンググループ答申への対応
改善報告書一式（2017年度受審）
オンライン授業 学内講習会・アンケート
大学ホームページ（大学教育開発・支援センター）
【230525】 <教育改革推進会議>2023年度成績追跡調査の取り扱い等について
<国際化推進会議>議事事項（2022年度）
【230413】 <全学共通カリキュラム運営センター委員会>TOEIC L&R IP スコアデータ提供依頼（継続）
2022年度自己点検・評価活動の重点評価項目/国際化に係る報告
【230720】 <自己点検・評価運営委員会>2022年度大学評価（認証評価）結果
【181206】 <自己点検・評価運営委員会>様式（基準4）
【200612付】 自己点検・評価報告書様式送付連絡（メール写し）
【220512】 <自己点検・評価運営委員会>2022年度自己点検・評価報告書作成上の注意点
【221215】 <自己点検・評価運営委員会>大学評価（認証評価）指摘事項の改善状況
【230425】 <事務主管者会議>2023年度「大学基礎データ」の作成について（依頼）
【230622】 <入試委員会>2023年度一般選抜「総括」
【230622】 <入試委員会>2023年度「入学試験に関する統計資料」
【230706】 <入試委員会>講演「2023年度入試を振り返る」（河合塾 KEI アドバンス）
【230928】 <入試委員会>講演「2023年度入試結果」（株式会社フロムページ）
【230309】 <不正防止計画推進本部会議>科学研究費助成事業実地検査報告
【230713】 <不正防止計画推進本部会議>学生に対する研究倫理教育の取り組みについて

【230713】<不正防止計画推進本部会議>2023年度 APRIN eラーニングプログラムの実施について
【220303】<不正防止計画推進本部会議>「研究機関における公的研究費管理監査のガイドライン」の改正に伴う対応について（理事会への報告）
<教育改革推進会議>FD 展開状況報告書（2017～2022）
【2017年度】<自己点検・評価運営委員会>自己点検・評価報告書（統合版/基準 2）
【2018年度】<自己点検・評価運営委員会>自己点検・評価報告書（統合版/基準 2, 4）
【2019年度】<自己点検・評価運営委員会>自己点検・評価報告書（統合版/基準 2, 6, 7）
【2020年度】<自己点検・評価運営委員会>自己点検・評価報告書（統合版/基準 2, 3, 4, 5, 8, 9）
【2021年度】<自己点検・評価運営委員会>自己点検・評価報告書（統合版/基準 1, 2, 6, 7, 10）
【2022年度】<自己点検・評価運営委員会>自己点検・評価報告書（統合版/基準 2, 3, 4, 5, 8, 9）
【230413】<国際化推進会議>国際化推進機構 2022 年度事業報告及び 2023 年度事業計画
【230525】<部長会>2022 年度研究所等事業報告書、2023 年度研究所等事業計画書（抜粋）
<大教センター>2022 年度報告及び 2023 年度計画
【210507】教育職員免許法施行規則等の一部を改正する省令の施行等について（通知）
学校・社会教育講座規程
【220310】<部長会>2021 年度第 4 回学校・社会教育講座委員会報告
【220317】<部長会>教員養成課程の自己点検・評価の実施方法
【220929】<自己点検・評価運営委員会>自己点検・評価規程の一部改正
全学教員養成会議規程
【220929】<自己点検・評価運営委員会>2022 年度教員養成課程自己点検・評価報告書
<自己点検・評価運営委員会>自己点検・評価報告書の作成（依頼）（2019～2022）
目標管理制度の手引き（2023 年度版）
【230425】<事務主管者会議>2023 年度の目標設定にかかわるスケジュールと留意点
職務遂行力評価制度の手引き（2023 年度版）
【231219】<事務主管者会議>2023 年度職務遂行力評価の実施（人事部長）
学部管轄予算運用原則規程
【230518】<部長会>2022 年度学部管轄予算決算
【230720 改訂】学部管轄人件費についての申し合わせ事項
特別任用教員任用規程
ティーチングアシスタント及びステューデントアシスタントに関する規程
助教 A・B 任用規程
助教 D 任用規程
助教 R 任用規程
助教 T 任用規程
教育研究コーディネーター任用規程
リサーチアシスタント（RA）採用規程
教育研究嘱託就業規則
特別任用教員任用細則
ポストドクトラルフェロー（PD）任用規程
在外教員招聘制度に関する基準
【210218】<部長会>2021 年度以降のゲスト・スピーカー制度の運用
【220721】<部長会>2023 年度学部管轄人件費（案）
【221124】<部長会>2023 年度学部管轄人件費による配置計画
【230706】<部長会>2022 年度学部管轄人件費の配置実績
【230713】<部長会>教学条件による 2024 年度教学体制
【230413】<部長会>2024 年度における教学条件変更要望の確認
【230706】<部長会>グローバル・リベラルアーツ・プログラムにおける 2023 年度教学条件の変更
【231019】<部長会>学校・社会教育講座における 2024 年度教学条件の変更
【221120】<総長室会議>自己点検・評価報告書（2019 年度～2022 年度）における「全学的な課題」の取り扱い
日本学術振興会（スーパーグローバル大学創成支援事業）
<教育改革推進会議>グローバル教養副専攻関連資料（登録者の増加）
<国際化推進会議>シラバス関連資料（英語化）
<全学共通カリキュラム運営センター委員会>GLAP 関連資料（全学共通科目併置）
スーパーグローバル大学創成支援事業令和 2 年度中間評価結果
大学ホームページ（点検・評価活動）

	<p>【190411】<部長会>外国人留学生獲得に向けたワーキンググループの設置</p> <p>【200514】<国際化推進会議>「PEACE Project」運営協議会の設置について</p> <p>【200924】<国際化推進会議>留学生受入れ新制度 Type2 運営協議会の設置</p> <p>【210415】<国際化推進会議>RSP 事業 2021 年度 NEXUS・PEACE 運営協議会体制</p> <p>全学内部質保証推進組織による新型コロナウイルス感染症拡大の防止対応</p> <p>情報公開・データ（ウェブページ）</p> <p>大学ホームページ（立教大学 研究者情報）</p> <p>大学ホームページ（就職・進学データ）</p> <p>RGuide 履修要項・教務関連案内（2023）（ウェブページ）</p> <p>大学ホームページ（WEB シラバスホーム）</p> <p>大学ホームページ（学生生活・キャリア）</p> <p>大学ホームページ（学費・納入金）</p> <p>大学ホームページ（認可申請書及び届出書並びに設置計画履行状況報告書）</p> <p>【法人】ウェブページ（事業・財務情報）</p> <p>【法人】ウェブページ（立教学院 2022 年度決算について（説明資料））</p> <p>大学ホームページ（トップページ）</p> <p>Web サイト更新・修正・削除受付フォーム</p> <p>大学ホームページ（立教大学ファクトブック）</p> <p>【220929】<自己点検・評価運営委員会>2021 年度自己点検・評価報告書における報告を踏まえた全学的な課題</p> <p>【230427】<自己点検・評価運営委員会>既存の各種方針点検・評価結果</p>
3 教育研究組織	<p>職位職制規程</p> <p>【人工知能学研究科】ウェブページ</p> <p>【法学部】大学ホームページ（法曹コース開設（2021））</p> <p>【社会デザイン研究科】ウェブページ（Master of Social Development and Administration Course Graduate School of Social Design Studies）</p> <p>大学ホームページ（法学部国際ビジネス法学科 2022 年 4 月「グローバルコース」開設）</p> <p>【スポーツウエルネス学部】ウェブページ</p> <p>センター等一覧</p> <p>附置研究所・センターその他の組織等の趣旨・目的等</p> <p>大学ホームページ（資格取得のサポート概要）</p> <p>大学ホームページ（資格取得（SPIRIT））</p> <p>大学ホームページ（教員養成に関する情報）</p> <p>内閣府ウェブページ（Society 5.0）</p> <p>【201215】<事務主管者会議>情報系部門の統合</p> <p>【230203】【学校法人立教学院・立教大学】特定地域内学部収容定員増加届出書類</p> <p>大学ホームページ（「環境学部（仮称）」の設置構想について）</p> <p>【外国語教育研究センター】ウェブページ</p> <p>【200924】<国際化推進会議>立教大学海外事務所（香港、ロサンゼルス）の設置</p> <p>大学ホームページ（国際化に対応した施設・設備）</p> <p>【180419】<部長会>「学部等設置構想検討プロジェクト」の設置</p> <p>【180426】<部長会>学部等設置構想検討プロジェクトの構想検討ワーキンググループ設置</p> <p>【200716】<部長会>「第 2 次学部等設置構想検討プロジェクト」の設置</p> <p><部長会>外国語教育研究センター設置の経緯</p> <p><部長会>人工知能科学研究科設置の経緯</p> <p><部長会等>情報戦略推進室設置の経緯</p> <p><部長会>コミュニティ福祉学部再編の経緯</p> <p><部長会>スポーツウエルネス学部設置の経緯</p> <p><部長会>学部等設置構想検討プロジェクト報告までの経緯（旧情報社会デザイン学部）</p> <p><部長会>第二次学部等設置構想検討プロジェクト報告までの経緯（旧情報社会デザイン学部）</p> <p><部長会>環境学部（旧情報社会デザイン学部）検討の経緯</p> <p>【210715】<自己点検・評価運営委員会>2020 年度自己点検・評価報告書（まとめ）</p> <p>【230720】<自己点検・評価運営委員会>2022 年度自己点検・評価報告書（まとめ）</p> <p>【230720】<自己点検・評価運営委員会>中期計画・事業計画の進捗状況等</p>
4 教育課程・学習成果	<p>【全学部・研究科】履修要項（2023）</p> <p>大学ホームページ（立教大学の学びのスタイル「RIKKYO Learning Style」）</p>

学士課程における3つの学修期及び各学修期の目的
【文学部】カリキュラムマップ(2023)
【220428】<教育改革推進会議>2021年度のeポートフォリオ「立教時間」開発報告
立教時間：学生用マニュアル(SPRIT)
履修要項参照ページ一覧(基準4)
教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮(各学部における取組み例)
【経済学部】履修要項(2023)
【社会学部】履修要項(2023)
【コミュニティ福祉学部】履修要項(2023)
【スポーツウエルネス学部】履修要項(2023)
【経営学部】AACSB自己点検報告書(2023)
大学ホームページ(全学共通科目)
大学ホームページ(グローバル教養副専攻)
【ビジネスデザイン研究科】履修要項(2023)
【21世紀社会デザイン研究科】履修要項(2023)
【異文化コミュニケーション学部】履修要項(2023)
大学ホームページ(2019年度より授業時間を1回100分に変更)
大学ホームページ(学年暦(2023))
【現代心理学部】【231024】<学部・研究科教務委員会>2024年度履修要項・シラバス等作成スケジュール
【現代心理学部】【230613】<教授会>議事録(抜粋)
【現代心理学部】【230613】<教授会>学生による授業評価アンケートの総評
【理学部】履修要項(2023)
【経営学部】履修要項(2023)
【人工知能学研究科】履修要項(2023)
【181206】<大学院委員会>リサーチワークとコースワークを適切に組み合わせた教育について
【理学部】共通教育推進室内規
【理学部】ウェブページ(共通教育推進室(SCOLA))
【2023シラバス】【理学部】科学史
【2023シラバス】【理学部】科学の倫理
【コミュニティ福祉学部】2023年度版基礎演習ガイドブック
【2023シラバス】【コミュニティ福祉学部】基礎演習(福祉学科)
【2023シラバス】【コミュニティ福祉学部】基礎演習(コミュニティ政策学科)
【230316】<部長会>英語プレイスメントテストの廃止
【190314】<大学院委員会>経営学研究科経営学専攻(MB)改革案
【201001】<部長会>法学部国際ビジネス法学科におけるグローバルコースの設置
【220317】<部長会>「SDGsリサーチコース」「人文情報・メディア学コース」の設置等
【230720】<部長会>2024年度学部管轄人件費(案)
【231130】<部長会>2024年度学部管轄人件費による配置計画
立教のキャリア・就職支援
【2023シラバス】科目名「キャリア」検索結果
【コミュニティ福祉学部】正課インターンシップ受入れ先一覧(2023)
【2023シラバス】【コミュニティ福祉学部】キャリアデザイン
【2023シラバス】【コミュニティ福祉学部】社会福祉とキャリア形成
【コミュニティ福祉学研究科】【230710】<大学院社会福祉学専攻課程協議会>総会議事録
【2023シラバス】【ビジネスデザイン研究科】ビジネスシミュレーション
【2023シラバス】【ビジネスデザイン研究科】コンサルティング・メソッド1
【2023シラバス】【人工知能学研究科】AIビジネス特論A
【2023シラバス】【人工知能学研究科】人工知能社会実装
【人工知能学研究科】【200908】<研究科委員会>記録(抜粋)
【人工知能学研究科】コロキウム案内(2020)
【人工知能学研究科】知の共有セミナー案内(2020)
【人工知能学研究科】【230620】<研究科委員会>記録(抜粋)
【人工知能学研究科】知の共有セミナー案内(2023)
シラバス初校校正依頼添書(2024)
シラバス記載内容第三者チェック職務担当者一覧(2024)
【220428】<教育改革推進会議>2022年度「学生による授業評価アンケート」の実施科目およびスケジュール、各種取り扱い(案)

【221020】<教育改革推進会議>2022年度春学期「学生による授業評価アンケート」実施報告
【230427】<教育改革推進会議>2022年度「学生による授業評価アンケート」学部等総評の執筆について（依頼）
大学ホームページ（大学教育開発・支援センター「学生による授業評価アンケート報告書」）
【異文化コミュニケーション学部】【230307】<基礎演習担当者打合せ>打ち合わせメモ
【異文化コミュニケーション学部】2023年度春学期基礎演習A進行表+成績評価方法
【異文化コミュニケーション学部】2023年度春学期「グローバル研究入門」シラバス、授業実施要領
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】英語ディスカッション（英語DSC）
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】英語リーディング&リスニング1（英語RW1）
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】英語リーディング&リスニング2（英語RW2）
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】英語ディベート（英語DBT）
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】英語プレゼンテーション（英語P）
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】英語eラーニング（英語e）
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】上級英語1
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】上級英語2
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】ドイツ語基礎1
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】ドイツ語基礎2
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】フランス語基礎1
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】フランス語基礎2
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】スペイン語基礎1
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】スペイン語基礎2
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】中国語基礎1
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】中国語基礎2
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】朝鮮語基礎1
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】朝鮮語基礎2
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】ロシア語基礎1
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】ロシア語基礎2
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】大学生の日本語A
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】大学生の日本語B
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】大学生の日本語C
【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】大学生の日本語D
【全学共通カリキュラム運営センター】【200424】<総合系科目構想・運営チームミーティング>議事録
【全学共通カリキュラム運営センター】【200424】<総合系科目構想・運営チームミーティング>第1・2回オンライン授業講習会資料
【全学共通カリキュラム運営センター】【200710】<総合系科目構想・運営チームミーティング>議事録
【全学共通カリキュラム運営センター】【200710】<総合系科目構想・運営チームミーティング>第3回オンライン授業講習会資料
【2023シラバス】【社会学部】Lecture & Discussion on Culture B
シラバス・時間割検索システム訂正表（2023）（SPRIT）
Canvas LMS 学生用マニュアル（SPRIT）
Blackboard 学生用マニュアル（SPRIT）
【2021シラバス】【コミュニティ福祉学研究科】コミュニティ政策研究6
【2022シラバス】【現代心理学研究科】映像身体学原論
「学びの技法」科目一覧（2023）
【2023シラバス】【理学部】計算機入門1
【2023シラバス】【経営学部】リーダーシップ入門（BL0）
【2023シラバス】【経営学部】BL1
【2023シラバス】【経営学部】BL2
【2023シラバス】【経営学部】Introduction to BBL(BBL0)
【2023シラバス】【経営学部】EAP 1
【2023シラバス】【経営学部】EAP 2
【全学共通カリキュラム運営センター】「多彩な学び」における企画提案型科目募集要項
【全学共通カリキュラム運営センター】総合系科目目表（2023）

【2023 シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】立教ゼミナール発展編 3
【スポーツウエルネス学部】ウェルカムキャンプについて
【スポーツウエルネス学部】新入生キャンプ
【スポーツウエルネス学部】【230412】<教授会>議事録
【スポーツウエルネス学部】ウェブページ（ウェルカムキャンプ紹介）
【2023 シラバス】【社会学研究科】プロジェクト研究 A 1
【2020 シラバス】【社会学研究科】社会学特別講座 1
【2023 シラバス】【キリスト教学研究科】サーヴィスラーニング 1
【コミュニティ福祉学部】ウェブページ（コミュニティ福祉研究所）
【200304】<教育改革推進会議>学修成果の可視化を目的としたループリック開発 パイロット版作成報告
【220428】<教育改革推進会議>各学部等における学修成果の可視化を目的とした「学修成果ループリック（第 1 版）」作成支援報告
【221215】<教育改革推進会議>「学修成果ループリック（第 1 版）」の活用状況に関するアンケート結果
【231019】<教育改革推進会議>「学修成果ループリック（第 1 版）」の点検依頼およびスポーツウエルネス学部における新規作成依頼
【2023 シラバス】【観光学部】基礎演習
【2023 シラバス】【観光学部】観光学概論
【231214】<教育改革推進会議>2024 年度 4 月入学者オリエンテーション調整状況
【文学部】オフィスアワー（2023）
【230519】<全学教務委員会>2022 年度低単位修得者への面談結果報告
【図書館】ウェブページ（ラーニングアドバイザー）
TA・SA HANDBOOK 2023（日本語）
【GLAP】【230725】<実務委員会>議事録（抜粋）
【GLAP】【240130】<実務委員会>議事録（抜粋）
【2023 シラバス】【文学部】日本語概論 1
【2023 シラバス】【社会学部】基礎演習
【社会学部】2023 年度基礎演習夏季休暇期間課題図書一覧・課題図書の課題文
【経営学部】オンライン授業に関する学生意識調査（2020）
【経営学部】学びと成長に関する調査（2022）
【2023 シラバス】【文学研究科】米文学特殊研究 7A
【2023 シラバス】【文学研究科】米文学特論 7A
【法学部】科目表（2023）
【全学共通カリキュラム運営センター】総合系科目「学びの精神」科目群の担当に当たってのガイドライン
【全学共通カリキュラム運営センター】総合系科目「多彩な学び」科目群の担当に当たってのガイドライン
【240125】<部長会>2024 年度「立教大学学則」の改正
【240125】<大学院委員会>2024 年度「立教大学大学院学則」の改正
2020 年度秋学期の授業実施方針（修正案+補足）
2021 年度授業実施方針（2 次案+補足）
【231130】<国際化推進会議>議案書
【230413】<国際化推進会議>2022 年度海外留学プログラム実施結果
【230427】<全学共通カリキュラム運営センター委員会>議事録（抜粋）
【社会学部】【220525】<教授会（FD 委員会）>議事録（抜粋）
【社会学部】【220525】<FD 委員会>社会調査法 1～3 について
【社会学部】【220525】<FD 委員会>情報処理 1（入門）について
<部長会>全学教務委員会報告（2022）
<部長会>全学教務委員会活動報告（2018～2022）
【社会学部】【210526】<教授会（FD 委員会）>議事録（抜粋）
【社会学部】副査評価チェックシート
【現代心理学部】履修要項（2023）
【2023 シラバス】【現代心理学部】卒業論文指導演習 1（心理学科）
【2023 シラバス】【現代心理学部】卒業論文指導演習 2（心理学科）
【2023 シラバス】【現代心理学部】卒業論文・卒業制作指導演習 1（映像身体学科）
【2023 シラバス】【現代心理学部】卒業論文・卒業制作指導演習 2（映像身体学科）
【2023 シラバス】【現代心理学部】専門演習 C 1

【2023 シラバス】 【現代心理学部】 専門演習 C 2
学位規則 (2023)
【現代心理学部】 学位申請論文に関する現代心理学研究科申し合わせ
博士学位申請ガイドブック (2023)
博士課程前期課程・後期課程 2022 年度学位授与者数
博士学位申請手続き要領
博士学位論文取扱い事務に関する内規
学位論文審査手数料規則
【230907】 <大学院委員会> 博士学位授与審議 (抜粋)
【社会学部】 卒論提出率統計
【現代心理学研究科】 【230222】 <研究科委員会> 議事録 (抜粋)
【現代心理学研究科】 【230222】 <研究科委員会> FD 報告 2022 年度大学院授業評価アンケート
【現代心理学研究科】 大学院アンケート (2023.01 実施)
【230202】 <全学共通カリキュラム運営センター委員会> 2023 年度英語プレイスメントテストおよび英語力伸長度測定テスト実施体制
【230427】 <全学共通カリキュラム運営センター委員会> 2023 年度英語プレイスメントテスト得点分布
【231005】 <全学共通カリキュラム運営センター委員会> 2023 年度春学期 (4・6 月) 実施 英語力伸長度測定テスト (報告)
【240201】 <全学共通カリキュラム運営センター委員会> 2023 年度秋学期 (10・12 月) 実施 英語力伸長度測定テスト (報告)
【210715】 <教育改革推進会議> 2021 年度 1 年次 9 月「学びと成長の歩みの記録 (新学修状況調査)」の実施
【220630】 <教育改革推進会議> 2022 年度「卒業時調査 (卒業時アンケート)」の実施
【230713】 <教育改革推進会議> 2022 年度「卒業時アンケート (2022 年 3 月卒)」調査報告 (概要メモ)
【理学部】 【230719】 <学部・研究科 FD 委員会> 議事録 (抜粋)
【理学部】 【230719】 <学部・研究科 FD 委員会> 2022 年度卒業生アンケート分析結果について
【230713】 <教育改革推進会議> 2023 年度「卒業後調査」および「就職先調査」の実施
【231214】 <教育改革推進会議> 2023 年度「卒業後調査」 (卒後 3 年 Web 調査) 集計結果等の取り扱いについて
【240125】 <教育改革推進会議> 2023 年度「卒業後調査」および「就職先調査」におけるインタビュー調査の実施結果
【GLAP】 【221027】 <センター委員会> 議事録 (抜粋)
【GLAP】 【221222】 <センター委員会> 議事録 (抜粋)
【190425】 <教育改革推進会議> 学修成果の可視化に向けた検討ワーキンググループの設置
【220428】 <教育改革推進会議> 「学修成果ルーブリック (第 1 版)」作成支援報告
【220428】 <教育改革推進会議> 「学修成果ルーブリック」第 1 版 (全学部+全学共通科目)
【240125】 <教育改革推進会議> 「グローバル基幹力」ルーブリックを用いた自己評価の実施及び実施結果報告
<教育改革推進会議> 学位論文審査基準の修正関係資料
全学内部質保証推進組織における点検・評価 (基準 4)
【181206】 <大学院委員会> 大学院に係る課題 (現状の確認)
【201001】 <教育改革推進会議> 「第一次遠隔授業活用検討ワーキンググループ」最終報告
【211028】 <教育改革推進会議> 「第二次遠隔授業活用検討ワーキンググループ」報告
【230615】 <部長会> 遠隔授業の活用方針
【220310】 <教育改革推進会議> ミックス型授業のパイロット実施
【230302】 <教育改革推進会議> ミックス型授業のパイロット実施の継続
【230720】 <部長会> 2024 年度以降の授業形態
【200130】 <教育改革推進会議> 学修成果の可視化を目的としたルーブリックの開発と活用・普及について
大学ホームページ (立教時間: ルーブリックを使用する)
立教時間: ルーブリックを使用する/各種ルーブリック (SPRIT)
立教時間: ルーブリックを使用する/「ルーブリック」活用ガイド (SPRIT)
立教時間: ルーブリックを使用する/科目別ルーブリック設定 (SPRIT)
立教時間: ルーブリックを使用する/汎用ルーブリック設定 (SPRIT)
立教時間: ルーブリックを使用する/科目別ルーブリック課題提出一覧ダウンロード手順 (SPRIT)

	立教時間：ループブックを使用する／汎用ループブック課題提出一覧ダウンロード手順（SPRIT）
	立教時間：ループブックを使用する／科目別ループブックテンプレート（論証型レポート・ループブック）設定手順（SPRIT）
	立教時間：ループブックを使用する／汎用ループブックテンプレート（学修成果ループブック）設定手順（SPRIT）
	立教時間：ループブックを使用する／科目別ループブックを回答する（SPRIT）
	立教時間：ループブックを使用する／汎用ループブックを回答する（SPRIT）
	立教時間：ループブックを使用する／科目別ループブック採点を実施する（SPRIT）
	立教時間：ループブックを使用する／科目別ループブック採点後の学生画面表示（SPRIT）
	立教時間：ループブックを使用する／汎用ループブック採点を実施する（SPRIT）
	立教時間：ループブックを使用する／汎用ループブック採点後の学生画面表示（SPRIT）
	【210422】＜教育改革推進会議＞立教時間における正課外プログラムに関連する学修成果項目の入力
	【230720】＜自己点検・評価運営委員会＞2022年度大学評価（認証評価）結果（他大学の結果）
	【220317】＜部長会＞文学部・研究科・キリスト教学研究科副専攻の設置、大学院特別進学生制度の実施について
	【220715】＜全学教務委員会＞文学部・文学研究科・キリスト教学研究科デュアル・プログラム設置、特別進学生制度実施について
	【理学部】【231004】＜学部・研究科FD委員会＞記録（抜粋）
	【理学部】【231004】＜学部・研究科FD委員会＞学修成果ループブック運用の試行結果
	【社会学研究科】【210707】＜FD委員会＞大学院について
	【観光学部】【181218】＜教授会＞議事録（抜粋）
	【コミュニティ福祉学部】【221021】＜実習委員会＞議事録
	【コミュニティ福祉学部】【221126】＜実習委員会＞議事録
	【コミュニティ福祉学部】【221216】＜実習委員会＞議事録
	【コミュニティ福祉学部】【230201】＜実習委員会＞議事録
	【211014】＜部長会＞コミュニティ福祉学部改編（案）
	【コミュニティ福祉学研究科】【220608】＜研究科委員会＞議事録（抜粋）
	【コミュニティ福祉学研究科】【220608】＜研究科委員会＞大学院改革について
	【経営学部】【200804】＜教授会＞議事録（抜粋）
	【210218】＜全学共通カリキュラム運営センター委員会＞英語教育新カリキュラム（2年次以降の自由科目）の提案
	【230706】＜全学共通カリキュラム運営センター委員会＞2024年度全学共通言語系科目（英語）新設科目の提案
	【230706】＜全学共通カリキュラム運営センター委員会＞2024年度全学共通言語系科目（言語B）新設科目の提案
	【231116】＜全学共通カリキュラム運営センター委員会＞「2024年度以降の言語B教育新カリキュラム」まとめ
	【230316】＜全学共通カリキュラム運営センター委員会＞「2024年度以降の言語B教育新カリキュラム」に関する報告と提案
	【231026】＜全学共通カリキュラム運営センター委員会＞言語B新カリキュラム必修科目「〇〇語A/B」の統一テストについて
5 学生の受け入れ	【221201】＜入試委員会＞2024年度学部1年次入試「出願資格」「募集人員」「科目・時間・配点」の報告依頼（「出願資格」および「科目・時間・配点」）
	【221201】＜入試委員会＞2024年度学部1年次入試「出願資格」「募集人員」「科目・時間・配点」の報告依頼（募集人員）
	【221201】＜入試委員会＞2023・2024年度編入学試験・大学院入試「出願資格」「募集人員・試験科目・試験時間」「実施区分」確認の報告依頼
	【230309】＜入試委員会＞2024年度 学部1年次「出願資格・試験科目・試験時間・配点・募集人員の変更点」
	【230309】＜入試委員会＞2024年度 学部1年次「出願資格」
	【230309】＜入試委員会＞2024年度 学部1年次「科目・試験時間・配点」
	【230309】＜入試委員会＞2024年度 学部1年次「募集人員」
	【230413】＜入試委員会＞2024年度3年次編入学（学士編入）・転部（転科）試験「出願資格・募集人員・試験科目・試験時間」
	【230413】＜入試委員会＞2023年度大学院入試（2023年秋入学者対象）「出願資格・募集人員・試験科目・試験時間・試験日程（夏季実施分）」

【230413】＜入試委員会＞2024年度入試大学院入試（2024年春・秋入学者対象）「出願資格・募集人員・試験科目・試験時間」「試験日程（夏・秋季実施分）」
【一般選抜】入試要項（2024）
【文学研究科】入試要項（前期課程／2024秋季）
【文学研究科】入試要項（後期課程／2024春季）
【社会学部】自考力入試パンフレット
【自由選抜】入試要項（2024）
【コミュニティ福祉学部】入学希望者の推薦についてのご依頼（2024）
【社会デザイン研究科】入試要項（前期課程／2024秋季）
【社会デザイン研究科】入試要項（前期課程／2024春季）
【社会デザイン研究科】入試要項（後期課程／2024春季）
大学ホームページ（経済支援型の奨学金（入学前申し込み））
大学ホームページ（経済支援型の奨学金（入学後申し込み））
大学ホームページ（留学支援などその他の奨学金）
大学ホームページ（大学院生対象の奨学金）
大学ホームページ（資料請求・デジタルパンフレット）
学士課程における入学者選抜実施体制（概念図）
入試連絡協議会規程
【240118】＜入試委員会＞入試従事者に関する申し合わせ事項
【理学研究科】【230621】＜専攻主任会＞記録要約（抜粋）
【理学部】【230705】＜教授会・研究科委員会＞記録要約（抜粋）①
事務主管者会議規程
【230606】＜事務主管者会議＞2024年度入試事務組織
【230713】＜入試委員会＞2024年度「入学試験組織」
【201217】＜入試委員会＞2021年度入試実施時の新型コロナウイルス感染症対策について
【200709】＜部長会＞2021年度アスリート選抜入試のオンラインでの実施
【210930】＜入試委員会＞2022年度外国人留学生入試（筆記試験および面接による募集制度）における選考方法の変更
【ビジネスデザイン研究科】【200915】＜入試実施検討会議＞記録（抜粋）
【ビジネスデザイン研究科】秋季入試口頭試問誘導役（ホスト）マニュアル（2021）
【ビジネスデザイン研究科】外国人入試（春季実施）【試験監督マニュアル】筆記試験（2021）
【人工知能学研究科】【200609】＜研究科委員会＞記録（抜粋）
【人工知能学研究科】【200623】＜研究科委員会＞記録（抜粋）
【人工知能学研究科】【200707】＜研究科委員会＞記録（抜粋）
【人工知能学研究科】一般・社会人入試（秋季実施）【試験監督マニュアル】（2021）
【230413】＜入試委員会＞2023年度「受験上の配慮」「修学上の配慮」入学者一覧
大学ホームページ（特別入試）
大学ホームページ（大学院2024年度入試要項）
【230413】＜入試委員会＞2024年度入試の査定方針
博士課程における収容定員に対する在籍学生数比率
【230720】＜自己点検・評価運営委員会＞大学基準協会の評価基準に対する本学の現状について（大学基礎データ2023（表1～11））
【230720】＜自己点検・評価運営委員会＞次回本運営委員会での定員充足率改善に向けた取り組み状況の報告
【231214】＜自己点検・評価運営委員会＞大学評価（認証評価）指摘事項の改善状況
【理学部】【230705】＜教授会・研究科委員会＞記録要約（抜粋）②
【理学研究科】化学専攻特別進学奨励制度募集要項（2023）
【理学部】【240228】＜教授会・研究科委員会＞記録要約（抜粋）
【理学研究科】化学専攻後期課程奨励研究費
【理学部】【230419】＜教授会・研究科委員会＞記録要約（抜粋）
【理学研究科】物理学専攻優秀大学院生特別研究費（M-Fund）募集要項
【190516】＜部長会＞経営学研究科博士課程前期課程の定員変更
【210513】＜部長会＞2022年度からの収容定員の増加
【210930】＜部長会＞コミュニティ福祉学部改編
【210930】＜部長会＞スポーツウェルネス学部の設置
【211111】＜部長会＞経済学研究科博士課程後期課程の収容定員変更
【220120】＜部長会＞法学研究科博士課程後期課程の収容定員変更
【221215】＜部長会＞異文化コミュニケーション学部の収容定員関係学則変更認可申請

	【231214】＜教育改革推進会議＞3 方針の変更（学部等）
	【231214】＜教育改革推進会議＞3 方針の変更（研究科）
	【240125】＜教育改革推進会議＞3 方針の変更（学部等）
	【230525】＜教育改革推進会議＞2023 年度「成績追跡調査」
	【200611】＜自己点検・評価運営委員会＞2020 年度自己点検・評価活動の重点評価項目
	【230427】＜自己点検・評価運営委員会＞2023 年度自己点検・評価報告書
	【210715】＜自己点検・評価運営委員会＞諮問委員会からの御意見
	【230414】＜入試連絡協議会＞議事録
	【230623】＜入試連絡協議会＞議事録
	【231208】＜入試連絡協議会＞議事録
	【観光学研究科】 【230707】＜教務委員会＞議事録（抜粋）
	【観光学研究科】 【230711】＜研究科委員会＞議事録（抜粋）
	【230316】＜部長会＞「大学中期計画（2023 年度～2027 年度）・事業計画（2023 年度）」の公表
	【211028】＜教育改革推進会議＞3 方針およびカリキュラムマップの点検依頼（学部等用）
	【211209】＜教育改革推進会議＞3 方針の変更（学部等）
	【220127】＜教育改革推進会議＞3 方針の変更（学部等）
	【211209】＜教育改革推進会議＞入学者受入れ方針の改定
	【221215】＜教育改革推進会議＞全学の 3 方針の英訳化
	【220428】＜入試委員会＞一般入試・大学入学共通テスト利用入試における外国語（英語）の得点換算の変更
	【211028】＜入試委員会＞2023 年度現代心理学部自由選抜入試選考方法の変更
	【GLAP】 【220517】＜実務委員会＞議事録（抜粋）
	【コミュニティ福祉学部】 【200408～210312】＜FD 研修会＞記録（抜粋）
	【コミュニティ福祉学研究科】 【220511】＜研究科委員会＞議事録（抜粋）
	【220519】＜入試委員会＞2023 年度大学院入試コミュニティ福祉学・スポーツウエルネス学研究科の出願資格等
	【現代心理学研究科】 【190723】＜研究科委員会＞議事録（抜粋）
	【現代心理学研究科】 【191001】＜研究科委員会＞議事録（抜粋）
	【200409】＜入試委員会＞2021 年度大学院入試 出願資格
	【現代心理学研究科】 【191217】＜研究科委員会＞議事録（抜粋）
	【200409】＜入試委員会＞2021 年度大学院入試（2021 年春季施行分） 募集人員・試験科目・試験時間
	【異文化コミュニケーション研究科】 FD 展開状況報告（2020）
	【異文化コミュニケーション研究科】 FD 展開状況報告（2021）
6 教員・教員組織	【141106】＜自己点検・評価運営委員会＞議事録（抜粋）
	【141023】＜国際化推進会議＞「スーパーグローバル大学創成支援」構想検討ワーキンググループの名称及び構成
	【170323】＜部長会＞求める教員像および教員組織の編成方針の改定 大学ホームページ（立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言）
	【経営学部】 教員に求められる能力（国際基準） 大学ホームページ（研究活動と教授陣）
	【経済学部】 役職者および各種委員会委員（2023）
	【観光学部】 ウェブページ（学部・研究科教員紹介）
	【理学部】 客員教員一覧（2023）
	【150312】＜部長会＞人事枠発議様式の変更及び添付資料リストの統一について
	【230720】＜自己点検・評価運営委員会＞教員組織の多様性の現状 人事課について（Topics）（SPIRIT）
	【210318】＜部長会＞女性活躍推進法に基づく事業主行動計画策定 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画
	【210729】＜部長会＞ポジティブ・アクション実施にあたっての条件及び留意点等
	【240118】＜部長会＞専任教員人事枠発議（文学部文学科）
	【220929】＜部長会＞助教人事枠発議（理学部化学科）
	【コミュニティ福祉学部】 若手教員採用（2020, 2021）
	【180607】＜自己点検・評価運営委員会＞教員組織の多様性の現状
	【キリスト教学研究科】 ウェブページ 大学院担当教員資格基準及び資格審査手続規程

【ビジネスデザイン研究科】 【180124】 <研究科委員会>後期課程の改善案と確認（指導教員の資格）
<部長会>専任教員の担当コマ上限超過の報告とその結果（2023）
【経済学研究科】大学院生担当表（2023）
【社会学部】科目担当者決定手順（2024）
【経営学部】Survey Results Overview 及びFD展開状況報告（2018～2023）
大学ホームページ（学部についてのQ&A）
【現代心理学部】学部コラボレーション科目関連資料
【スポーツウエルネス学部】学科関連業務担当（エフォート表）（2023）
【ビジネスデザイン研究科】 【171122】 <研究科委員会>修了研究ガイダンスおよび指導教員の決定について
合議体と担当事務部局（例）
【211209】 <部長会>大学中期計画（2022年度～2026年度）・事業計画（2022年度）
しょうがいしゃ（学生・教職員）支援ネットワーク規程
【コミュニティ福祉学部】教職員向けポータルサイト（画面例）
TA・SAに係る規程及び制度改正
教育コーチに関する規程
「学びの精神」における教育コーチに関する規程
【経済学部】ティーチングアシスタント及びチューデントアシスタントに関する内規
【理学部】TAとの打合せ関係資料
【230518】 <部長会>2024年度全学共通科目総合系科目における専任担当ルール
コラボレーション科目（2023）（公募と開講科目）
【理学部】学部共通科目（2023）（履修要項抜粋）
【2023 シラバス】 【法学部】基礎文献講読
【GLAP】科目表（2023）
【231005】 <部長会>専任教員人事枠発議
教授・准教授任用規程
助教の種別一覧
助教任用規程（4種）
教授会規程
特別専任教授任用規程
特別専任教授任用細則
特別専任教授給与規程
【文学部】人事検討委員会内規
学部、研究科等内規（採用、昇格等）
【理学部】人事選考（教授、准教授）における人事選考委員会に関する申し合わせ
【理学部】人事選考委員会の例
【220714】 <部長会>助教Tテニュア付与に関わる審査結果（社会学部）
【221020】 <部長会>助教Tテニュア付与に関わる審査結果（経営学部）
【230713】 <部長会>助教Tテニュア付与に関わる審査結果（経営学部）
【現代心理学部】JREC-IN原稿/専任公募（例）
【外国語教育研究センター】専任教員人事の手続に関する内規
【外国語教育研究センター】JREC-IN（求人公募情報閲覧）
FD課題一覧（2018～2023）
【全学部】FD展開状況報告（2022）
【全研究科】FD展開状況報告（2022）
FD参加状況一覧
大学ホームページ（大学教育開発・支援センターニューズレター「MOVE」）
MOVE（オンライン特別号）（SPRIT）
教育活動表彰規程
【230216】 <部長会>2023年度新任教員オリエンテーションの実施
教務に関するご案内（2023）
Academic Guide（2023）
大学教育開発・支援センター実施プログラム等
大学ホームページ（全カリシンポジウム「『学びの精神』の課題と成果、これからの展望」）
大学ホームページ（公開シンポジウム『「全カリ」の意義と役割を改めて考える』）
大学ホームページ（全カリシンポジウム「言語科目としての日本手話-10年のあゆみ」）
大学ホームページ（全カリシンポジウム「オンライン授業の可能性」）

大学ホームページ（全カリシンポジウム「データサイエンス教育の現状と展望-Society 5.0の時代に向けて-」）
大学ホームページ（全カリシンポジウム「外国語による総合系科目（F科目）の成果と課題」）
大学ホームページ（「全カリニュースレター」）
【230720】＜全学共通カリキュラム運営センター委員会＞2023年度第2回担当者連絡会
利益相反マネジメントポリシー
利益相反マネジメント委員会規程
不正防止計画推進本部会議資料（APRIN関係（2018～2022））
研究活動ガイド（2023）
研究費ハンドブック（2023）
立教CHI情報リーダー メールサービス（例）
【経済学部】「基礎ゼミナール」担当者連絡会議資料（2020,2021）
【経済学部】「情報処理入門」担当者連絡会議資料（2020,2021）
【経済学部】教授会議事録抜粋（FD関係）
【法学部】＜教授会＞議事録抜粋（基礎文献講読委員会）
【現代心理学部】【210727】＜FD研修会＞記録
【現代心理学研究科】【211221】＜FD研修会＞記録
【GLAP】Tutorial科目担当者連絡会開催記録（2017～2023）
【ビジネスデザイン研究科】アドバイザーボードメンバー一覧（2023）
【ビジネスデザイン研究科】【180725】＜アドバイザー・ボードミーティング＞議事録
【ビジネスデザイン研究科】FD展開状況報告（2018）
【ビジネスデザイン研究科】FD展開状況報告（2019）
【ビジネスデザイン研究科】【160720】＜アドバイザー・ボードミーティング＞議事録
【ビジネスデザイン研究科】【180926】＜研究科委員会＞記録（寄附講座部分抜粋）
【ビジネスデザイン研究科】アンケート結果と改善・向上の例
【外国語教育研究センター】言語Aに係るFD関連資料
【外国語教育研究センター】言語Bオリエンテーション実施（提案）
【230302】＜教育改革推進会議＞各種教育調査の集計結果の閲覧方法（案内）
大学ホームページ（公開シンポジウム「動画で深める学び-教材から授業を変える-」）
大学ホームページ（「オンライン授業の成果と課題-第2回立教大学教育活動特別賞受賞者の経験から-」）
教育活動特別賞関係資料（2017～2023）
【図書館】ウェブページ（立教大学学術リポジトリ運用指針）
【図書館】ウェブページ（機関リポジトリ（RIKKYO Roots））
【理学部】独自の卒業時アンケート（設問）（2022）
【理学部】独自の卒業時アンケート結果（2022）
【人工知能学研究科】授業評価アンケート様式
【人工知能学研究科】【230905】＜研究科委員会＞記録（抜粋）
TA・SA HANDBOOK 2023 (English)
【190314】＜教育改革推進会議＞TA・SA業務説明会の開催
TA・SAに係るコロナ対応
TA・SA制度（SPIRIT）
【経営学部】ウェブページ（BLP/ビジネス・リーダーシップ・プログラム）
【経営学部】ウェブページ（BBL/バイリンガル・ビジネスリーダー・プログラム）
大学ホームページ（自分らしく活躍する力を育むグローバル・リーダーシップ・プログラム（立教GLP））
グローバル教育センター事業報告（2022）
SAへの連絡（メール）
【経営学部】2024年BLP春合宿のしおり（抜粋）
【220929】＜自己点検・評価運営委員会＞2021年度自己点検評価報告書（まとめ）
【法学部】＜教授会＞議事録抜粋（オンライン授業支援WG）
【コミュニティ福祉学部】FD展開状況報告（2018）
【経営学部】教員の在り方（AACSB自己点検・評価報告書）
【文学部キリスト教学科/キリスト教学研究科】兼任講師懇談会開催案内等
【全学共通カリキュラム運営センター】言語教育研究室のFDの例（2021年度春学期）
特別専任教授関連資料（2019年度～2020年度）
【2023シラバス】文学講義343（書誌学1）
【経済学部】＜教授会＞オンライン授業の知識等の共有（2020）

	【経済学部】オンライン授業科目の増加（2023⇒2024）
	【社会学部】2023年度社会学部委員
	【社会学部】【200624】＜教授会＞専任教員の担当科目の持ち方（説明資料含む）
	【観光学部】教員任用（2020～2023）
	【現代心理学部】2021年度FD「課題3」について各学科、専攻の見解
	【現代心理学部】【220301】＜教授会・研究科委員会＞議事録（抜粋）
	【現代心理学部】FD展開状況報告（2021）
	【異文化コミュニケーション学部】FD展開状況報告（2019）
	【異文化コミュニケーション学部】専任教員採用（英語）
	【異文化コミュニケーション学部】専任教員採用（国際協力）
	【GLAP】【191128】＜センター委員会＞議事録（抜粋）
	大学ホームページ（全学共通科目（概要））
7 学生支援	大学ホームページ（しょうがい学生へのサポート概要）
	大学ホームページ（キャンパス・ハラスメント対策）
	大学ホームページ（留学生活のサポート）
	大学ホームページ（在学生向けポータルサイト（SPIRIT））
	大学ホームページ（しょうがいしゃ（学生・教職員）支援ネットワーク）
	大学ホームページ（国際交流（SPIRIT））
	大学ホームページ（学習のサポート（SPIRIT））
	【210618】＜全学教務委員会＞『アカデミックアドバイザーの手引』改訂版の作成およびWeb公開について
	アカデミックアドバイザーの手引き（2022.4）
	外国人留学生チューター制度規程
	外国人留学生（NEXUSプログラム生対象）チューター制度規程
	【理学部】学習支援室
	【理学部】ウェブページ（学習や進路のサポート）
	【社会学研究科】前期課程科目表（2023）
	【2023シラバス】【法学部】英語を活用した授業
	【2023シラバス】【法学部】合同ゼミ又は合同セミナーを行う授業
	【法学部】大学ホームページ（国際法模擬裁判日本国内大会で書面（原告）の部で3位入賞）
	【現代心理学部】統計講習
	【人工知能学研究科】Slack活用例
	【人工知能学研究科】数理・プログラミング支援室
	大学ホームページ（学生生活（SPIRIT））
	大学ホームページ（正課外活動プログラム（チャレンジプログラム））
	大学ホームページ（キャンプ（SPIRIT））
	大学ホームページ（「学生キリスト教団体」（SPIRIT））
	Volunteer Guide（2023）
	ボランティアセンター活動報告書（2022）
	大学ホームページ（立教大学陸前高田サテライト（SPIRIT））
	陸前高田プログラムガイド
	大学ホームページ（援助金・表彰（SPIRIT））
	【コミュニティ福祉学部】ウェブページ（コミュニティ福祉学会「まなびあい」）
	教務事務センター問い合わせフォーム（履修・成績・授業）
	大学ホームページ（お問い合わせ（SPIRIT））
	大学ホームページ（オンライン授業マニュアルサイト／お問い合わせについて）
	大学ホームページ（オンライン授業マニュアルサイト／学生用マニュアル）
	大学ホームページ（オンライン授業マニュアルサイト／Blackboard：教員への連絡）
	大学ホームページ（オンライン授業マニュアルサイト／Canvas LMS：教員への連絡）
	【ACEプログラム】ウェブページ
	大学ホームページ（2年目を迎える「ACEプログラム」—アジアトップクラスの学生と共創）
	中間評価調書（大学の世界展開力強化事業）
	大学ホームページ（国連ユースボランティア）
	【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】国連ユースボランティア
	【理学部】FD展開状況報告（2020～2022）
	【コミュニティ福祉学部】2020年度、2021年度の個別対応
	【200423】＜部長会＞Zoomの利用

【200423】<部長会>ネット環境上の理由による「受講不能」学生の学修機会保障のための方策について（報告）
【210225】<部長会>ステイホームの学生支援（実績報告）
大学ホームページ（「学修環境整備奨学金」の給付について）
【200903】<部長会>学生対象コンビニプリントサービスの導入
【210318】<部長会>学生対象コンビニプリントサービスの導入結果
【210218】<部長会>TA/SA等を対象とする通信環境支援
【200514】<部長会>授業実施に関わる教室等の利用開放
大学ホームページ（CAMPUS Asia Plus 年次報告書 2021）
【21世紀社会デザイン研究科】【230621】<研究科委員会>院生室リニューアル案
【日本語教育センター】ウェブページ（日本語相談室）
大学ホームページ（在学中の外国人留学生の方へ（SPIRIT））
大学ホームページ（For Current International Students（SPIRIT））
大学ホームページ（CAMPUS LIFE（英語表記でのキャンパスガイド））
【経済学部】ウェブページ（留学生懇親会）
【経済学部】留学生交流団体 solidarity インスタグラム
【法学部】ウェブページ（留学生歓迎会）
【異文化コミュニケーション学部】ウェブページ（学生の活動と地域貢献）
【ビジネスデザイン研究科】外国人留学生対応（日本語）
【200611】<部長会>2020年度第1回しょうがいしゃ（学生・教職員）支援ネットワーク会議報告
しょうがいのある学生に対する修学支援（例）
大学ホームページ（Support for Students with Disabilities GUIDE BOOK Faculty and Staff Edition（* for Faculty and Staff））
【230316】<部長会>しょうがい学生支援に関する諸規程の改正・改定
【理学部】【240112】<数学科教室会議>議事録（抜粋/点字 TeX 講習会）
【しょうがい学生支援抜粋】学部管轄予算決算（2017～2022）
全学教務委員会規程
【理学部】【220126】<学部・研究科FD委員会>記録
【190517】<全学教務委員会>低単位修得者との面談報告（現代心理学部抜粋）
大学ホームページ（奨学金（SPIRIT））
大学ホームページ（奨学金及び経済支援制度）
大学ホームページ（国による高等教育の修学支援新制度（給付奨学金・授業料減免））
学部独自の奨学金一覧
【理学部】ウェブページ（創立30周年記念奨学金（2022））
【コミュニティ福祉学研究科】ウェブページ
【コミュニティ福祉学部】ウェブページ（コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金研究成果報告書（2022））
【現代心理学部】スカラシップ制度に関する規則
【現代心理学部】ウェブページ（映像身体学科学生研究会 スカラシップ審査結果（2023））
【現代心理学部】ウェブページ（第1回河野真理江奨励賞の受賞者決定）
【現代心理学研究科】院生の学会・講習会参加等に係る経費の補助について
学生相談所規程
「校友会レディスクラブ国際交流奨学金」規程
「東京セントポールライオンズクラブ奨学金」規程
大学ホームページ（オンライン留学相談予約サイト（SPIRIT））
【理学研究科】FD展開状況報告（2020～2022）
【現代心理学部】【210221】<教授会>現代心理学部におけるコンプライアンス基本方針
【スポーツウエルネス学部】ハラスメント講習の実績を示す資料
保健委員会規程
保健委員会報告（2022年度）
大学ホームページ（診療所・保健室）
【221110】<国際化推進会議>2022年度秋学期以降の外国語による医療支援サービス 加入対象者
大学ホームページ（立教の新入生支援）
【221215】<教育改革推進会議>2023年度4月入学者オリエンテーション調整状況
【221215】<部長会>2023年度学部・研究科新入生歓迎プログラム計画書
【200709】<部長会>2020年度秋学期の授業実施方針
【201001】<部長会>1年生交流プログラム開催報告
大学ホームページ（新入生を対象としたオンライン交流会を実施）

【Rikkyo Global Lounge】ウェブページ
【経営学部】ウェブページ (学部独自の活動)
KYODO NEWS PRWIRE ウェブページ (経営学部新入生ウェルカムキャンプのオンライン実施)
大学ホームページ (キャリアセンター (SPIRIT))
【230123】<キャリア支援委員会>2022年度学部キャリアサポーター活動報告
【230720】<自己点検・評価運営委員会><統合版>2022年度自己点検・評価報告書 (基準2)
大学ホームページ (学生個々の希望に沿った幅広いキャリア支援)
【コミュニティ福祉学部】ウェブページ (「課題解決プロジェクト season2」でコミュニティ福祉学部の学生チームが優勝)
【コミュニティ福祉学部】ウェブページ (「課題解決プロジェクト 2022 シーズン2」でコミュニティ福祉学部の学生チームが入賞)
【異文化コミュニケーション学部】ウェブページ (キャリア)
【異文化コミュニケーション学部】大学ホームページ (公開キャリア講演会)
大学ホームページ (支援プログラム)
【230427】<キャリア支援委員会>2023年度プログラムラインナップ
大学ホームページ (立教グローバル/ローカルキャリア支援ネットワーク)
【GLAP】【231130】<センター委員会>第2回 GLAP Alumni Reunion 実施報告
【異文化コミュニケーション研究科】【230718】<拡大FD>議事録
<教育改革推進会議>プレFDに関する情報提供 (2020~2022)
プレFDに関する情報提供 (SPRIT)
学生生活支援協議会規程
【230509】<学生生活支援協議会>学生の課外活動の状況
【法学部】大学ホームページ (法律相談で社会貢献を—学生法律相談室)
RIKKYO Future Project 関連資料
大学ホームページ (学生コーディネーター メンバー募集)
【221110】<部長会>学生食堂に関するアンケート結果報告
【230907】<部長会>新座キャンパス学生食堂「St. Paul's Cafe」の営業開始
大学ホームページ (マイボトル利用促進のためのウォーターサーバーを設置)
【230720】<部長会>マイボトル利用促進のためのウォーターサーバーの追加設置
【文学部】<文学部集会>参加者数と質疑応答内容のメモ (2021)
【文学部】ウェブページ (教育とカリキュラム)
【経済学部】ゼミナール連合インスタグラム
【法学部】自主講座 (2023)
【異文化コミュニケーション学部】学部公認団体マニュアル及び企画書様式
【異文化コミュニケーション研究科】意見交換会
【異文化コミュニケーション研究科】NeCoRe 概要
【異文化コミュニケーション研究科】学生からの意見対応 (キャリア支援等)
大学ホームページ (新型コロナウイルス感染症への対応について)
全学内部質保証推進組織による新型コロナウイルス感染症拡大の防止対応 (基準7 関連)
【230126】<教育改革推進会議>2022年度FD展開状況報告について
学部及び研究科のFD展開状況報告書 (2022)
【200611】<自己点検・評価運営委員会>2019年度自己点検・評価報告書 (まとめ)
【文学部】<基準6及び基準7>自己点検・評価報告書様式 (2021年度)
【220524】<学生生活支援協議会>立教大学学生支援の方針及び学生部像 (使命)
【221121】<しょうがいしゃ (学生・教職員) 支援ネットワーク会議>議事録抜粋
ボランティアセンター規程
ボランティアセンター運営協議会議案書 (2022)
国際センター規程
人権・ハラスメント対策センター規程
【230309】<部長会>2022年度人権・ハラスメント対策センター活動報告
キャリア支援委員会規程
体育会部長に関する規程
【231204】<学業・スポーツ活動両立支援委員会>目標修得単位数 (確認用)
低単位数修得者面談シート (体育会部長からの報告書例)
【221025】<学生生活支援協議会>自己点検・評価活動に関する学生支援課題の確認
【230509】<学生生活支援協議会>AED設置
【230519】<学生生活支援協議会>ユニバーサルデザイン自動販売機設置
【170126】<部長会>立教大学しょうがい学生支援室の組織変更

	<p>【170310】<しょうがいしゃ(学生・教職員)支援ネットワーク会議>精神しょうがい学生の対応と支援について</p> <p>しょうがいしゃ(学生・教職員)支援ネットワーク会議報告(WS又はFD実施組織抜粋)</p> <p>【170622】<部長会>学部管轄予算を通じたしょうがい学生支援</p> <p>しょうがい学生支援不服申立て手続規程</p> <p>【180607】<部長会>2018年度第1回しょうがいしゃ(学生・教職員)支援ネットワーク会議報告</p> <p>【190613】<部長会>2019年度第1回しょうがいしゃ(学生・教職員)支援ネットワーク会議報告</p> <p>授業におけるしょうがい学生支援 配慮事項と対応事例(2019年3月)</p> <p>【201203】<部長会>2020年度第2回しょうがいしゃ(学生・教職員)支援ネットワーク会議報告</p> <p>【210318】<部長会>2020年度第3回しょうがいしゃ(学生・教職員)支援ネットワーク会議報告</p> <p>授業のユニバーサルデザイン化・ハンドブック</p> <p>【220715】<全学教務委員会>授業のユニバーサルデザイン化に伴うシラバス記載方針</p> <p>【231020】<全学教務委員会>シラバスのユニバーサルデザイン化対応の実装結果について</p> <p>【231005】<国際化推進会議>「授業料減免制度」財源による既存奨学金の拡充</p> <p>【230427】<部長会>奨学金制度検討ワーキンググループの設置</p> <p>大学ホームページ(コロナ禍の国際交流-オンラインで“リアル”な体験)</p> <p>大学ホームページ(立教大学での外国人留学生の現状)</p> <p>【200430】<部長会>特別外国人学生による国外でのオンライン授業の受講</p> <p>【210318】<部長会>2021年度春学期対面授業及び試験・成績評価の配慮対象となる正規留学生</p> <p>【210318】<部長会>2021年度春学期末試験における新型コロナウイルス感染症に係る特例措置</p> <p>【220616】<部長会>2022年度秋学期未入国の正規留学生の配慮方針</p> <p>【200716】<部長会>立教大学緊急給与奨学金9月臨時募集の概要</p> <p>大学ホームページ(立教大学在学学生への食品配布支援第2弾)</p> <p><学生相談所所員会議>資料(2020,2021)</p> <p>「外国人留学生緊急給与奨学金」規程</p> <p>【210114】<部長会>2021年度キャリア支援プログラム等の実施方針</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策課外活動マニュアル(230401改訂)</p> <p>【200716】<部長会>2020年度学生部主催プログラムの開催</p> <p>【経済学部】1年生交流会(2022春学期)</p> <p>【法学部】法学部デー2020(開催案内)</p> <p>【異文化コミュニケーション学部】<教授会>議事録(抜粋)(海外留学研修等の代替措置)</p> <p>【異文化コミュニケーション学部】<基礎演習サポート報告会>議事録</p>
8 教育研究等環境	<p>大学ホームページ(立教大学の教育目的と各種方針(教育研究等環境の整備に関する方針))</p> <p>【111020】<部長会>キャンパスメーキング基本構想(資料含む)</p> <p>【201203】<部長会>池袋キャンパスメーキング基本構想(2020年)</p> <p>【211216】<部長会>新座キャンパスメーキング基本構想(2021年)(案)および新座キャンパス新棟建設計画案</p> <p>【160304】<しょうがいしゃ(学生・教職員)支援ネットワーク会議>立教大学キャンパス施設・設備に関わるバリアフリー指針</p> <p>【図書館】ウェブページ(図書館基本方針)</p> <p>【図書館】ウェブページ(図書館蔵書構築方針)</p> <p>【図書館】ウェブページ(立教大学オープンアクセス方針)</p> <p>研究活動行動規範</p> <p>研究活動における不正行為への対応に関する規程</p> <p>【リサーチ・イニシアティブセンター】ウェブページ(公的研究費の不正使用防止について)</p> <p>公的研究費の使用・管理に関する規程</p> <p>ライフサイエンスに係る研究・実験の倫理及び安全に関する規程</p> <p>安全保障輸出管理規程</p> <p>安全保障輸出管理ハンドブック(第7版)(2022.6)</p> <p>知的財産ポリシー</p> <p>情報戦略委員会規程</p> <p>情報戦略1.0</p> <p>情報戦略2.0</p> <p>池袋キャンパスAVサポート(2022)</p> <p>新座キャンパスAVサポート(2022)</p> <p>大学ホームページ(V-Campusガイドブック)</p> <p>情報セキュリティ対策基本規程</p>

2021 年度以降の施設関係予算の見通し
中長期修繕計画概要 (2022)
【220512】<部長会>池袋・新座キャンパスの第一期整備計画の推進体制
化学物質等管理委員会活動報告 (2017~2023)
衛生委員会報告 (2017~2022)
【160308】<建設委員会>タッカーホール講堂天井・耐震対策
【人工知能学研究科】使用設備 (図面)
【220120】<部長会>新座キャンパスメーキング基本構想 (2021 年) (案) および新座新棟 (仮称) 建設計画
【スポーツウエルネス学部】学部・研究科実験室・研究室 (図面)
【210114】<部長会>教室への機械換気装置の緊急整備について
しょうがい学生支援室規程
施設修繕予算要望資料 (2023) (しょうがい学生支援室)
【ボランティアセンター】note (ボラセン活動レポート)
大学ホームページ (バリアフリーマップ (池袋))
大学ホームページ (ICT を活用した学習支援)
大学ホームページ (施設利用 (SPIRIT))
大学ホームページ (メーザー・ラーニング・コモンズ (SPIRIT))
【図書館ウェブページ】 (新座図書館 フロア案内)
大学ホームページ (学内パソコン内訳 (SPRIT))
学内イントラネットへのアクセス (SPIRIT)
大学ホームページ (Blackboard (SPIRIT))
Blackboard 利用状況 (2017~2022)
Blackboard セルフラーニング (2017~2021)
大学ホームページ (Canvas LMS (SPIRIT))
大学ホームページ (立教時間 (SPIRIT))
立教時間 (概要、機能、利用状況等) (2022)
大学ホームページ (Rikkyo English Online について (学生向け) (SPIRIT))
Rikkyo English Online 利用状況 (2017~2022)
大学ホームページ (ネットでのルールとマナーについて (SPIRIT))
事務用 PC・事務系 LAN 利用ガイドライン
作業依頼書 (個人情報提供依頼書) (様式)
大学ホームページ (情報倫理規程 (SPIRIT))
大学ホームページ (立教大学における個人情報の取り扱いについて)
【220127】<部長会>個人情報保護法改正に伴う個人情報関係規程等の改正
【220125】<事務主管者会議>個人情報関係規程等の改正
大学ホームページ (対面授業に伴う感染対策として 3.7 億円規模の環境整備)
全学内部質保証推進組織による新型コロナウイルス感染症拡大の防止対応 (基準 8 関連)
図書館運営委員会規程
図書館運営委員会報告 (2022)
【図書館】ウェブページ (統計・データ集)
【図書館】ウェブページ (「探す・調べる」総合トップ)
図書館の蔵書冊数 (2018~2022)
大学ホームページ (教員推薦図書制度)
【図書館】ウェブページ (学生希望図書)
【図書館】ウェブページ (資料の受付 (雑誌、電子ジャーナル等))
【図書館】ウェブページ (データベースリスト)
【図書館】ウェブページ (立教大学図書館蔵書検索)
【図書館】ウェブページ (他大学図書館の利用)
【図書館】ウェブページ (READ (ディスカバリーサービス) について)
リポジトリ運用指針
図書館開館時間の変更 (2021~2022)
【図書館】ウェブページ (学修・教育支援)
【図書館】ウェブページ (レポート作成セミナー (学修・教育支援))
【図書館】ウェブページ (レポート・論文 FAQ)
【図書館】ウェブページ (課題図書 (リザーブブック) 制度)
【図書館】ウェブページ (情報リテラシー教育プログラム)
【210114】<部長会>図書館の開館時間変更

【210930】<部長会>活動制限指針における制限レベルの設定変更に対する図書館運営
【220414】<部長会>2022年度図書館レベル別運営指針
リサーチ・イニシアティブセンター規程
【リサーチ・イニシアティブセンター】ウェブページ
リサーチ・イニシアティブセンターの主な業務領域
全学研究助成委員会規程
コロナ禍における大学の考え方等（研究）
【リサーチ・イニシアティブセンター】ウェブページ（学内共通書式ダウンロードコーナー）
個人研究費等の執行状況（2022）
研究教育推進資金規程
学術推進特別重点資金助成規程
【230608】<部長会>2023年度第3回全学研究助成委員会報告
【リサーチ・イニシアティブセンター】ウェブページ（研究助成・補助金）
科研費等の募集の周知の例
科研費等に係るメールマガジンの例
【220603】<全学研究助成委員会>2022年度科研費申請サポートプログラムの実施について
科研費申請サポート件数（2022）
【220408】<全学研究助成委員会>2022年度研究プロジェクト室利用者
臨増コマ支出実績（2017～2022）
【210610】<部長会>バイアウト制度の一部見直し
科研費業務委託仕様書（2022）
各学部等のSAの人数（2023年5月1日現在）
教育研究コーディネーターの配置（2023年7月現在）
大学ホームページ（リーダーシップ教育）
【経営学部】ウェブページ（学生スタッフの活躍）
【経営学部】大学ホームページ（卒業生と在校生による対談）
【経営学部】note（高い視座でチームを導く全体CA紹介！）
教職員向けリンク一覧（SPIRIT）
教員向け授業関連情報まとめ（SPIRIT）
大学ホームページ（オンライン授業マニュアルサイト／教員用マニュアル）
ヘルプデスク運用状況（2017～2022）
【200423】<部長会>オンライン授業におけるTA・SA制度
【200618】<部長会>教員、TA/SA等に対する通信環境支援
【210617】<部長会>配信準備サポーター制度の新設
不正防止計画推進本部会議資料（学生への倫理教育関係（2017～2022））
【221215】<不正防止計画推進本部会議>不正行為対応関係資料
<不正防止計画推進本部会議>通知及びガイドラインへの対応
人文社会科学系の分野における倫理審査制度の整備
【210930】<部長会>ガイドライン改正に伴う研究活動における不正行為への対応に関する規程改正
ライフサイエンスに係る研究・実験の倫理及び安全委員会規程
研究活動行動規範マネジメント委員会規程
大学ホームページ（公的研究費等の不正使用について）
<部長会>研究費不正使用の再発防止策
点検・評価等を行う学内委員会の構成員等（基準8）
【230126】<部長会>2022年度第3回情報戦略委員会報告
化学物質等管理規程
【221201】<部長会>2022年化学物質等管理委員会活動報告
衛生管理規程
【230316】<部長会>2022年度衛生委員会報告
【230216】<部長会>2022年度第5回図書館運営委員会報告
【230309】<部長会>2022年度第10回全学研究助成委員会報告
【230126】<部長会>ライフサイエンスに係る研究・実験の申請書等の提出
【220421】<部長会>2022年度「立教大学研究活動行動規範マネジメント委員会」委員
【230202】<部長会>2022年度社会連携活動に関する利益相反自己申告制度
【220707】<部長会>「立教大学における安全保障輸出管理ハンドブック」の改訂
予算案担当部署からの改善要望等（2022）（施設関係）
総務部長と財務部長との協議で使用した資料（2022年度大学施設関係予算案）

	総長室との協議で使用した資料（2022年度大学施設関係予算案）
	V-Campus_2023年08月度月次報告書
	メディアセンター年報（2022）
	Canvas LMSの導入経緯
	【221215】＜部長会＞池袋キャンパスメーキング第一期整備計画 Ver1
	大学ホームページ（自己点検・評価報告書（2016年度））
	【220121】＜図書館運営委員会＞オープンアクセス方針案策定・学部からの質問、意見
	【160407】＜部長会＞2017年度以降の立教SFR募集等について
	大型研究外部資金の採択者数（2017～2022）
	大学ホームページ（研究活動上の不正行為に関する調査結果について）
9 社会連携・社会貢献	大学ホームページ（立教大学の社会連携方針）
	大学ホームページ（東日本大震災に伴う活動）
	自治体・企業等との各種協定一覧（2022年9月30日現在）
	豊島区ウェブページ（豊島区と区内大学との連携・協働に関する包括協定）
	新座市ウェブページ（新座市自治憲章条例市民参画と協働の10年の歩み）
	大学ホームページ（豊島区と区内大学の地域連携に関する懇談会）
	大学ホームページ（新座市内3大学学生と市長との懇談会）
	埼玉県ウェブページ（立教大学との包括協定）
	大学ホームページ（立教大学と西武ライオンズが「連携協力に関する基本協定」を締結）
	学外ボランティア団体等の学外組織の体制及び活動状況の確認
	学生受入れ依頼先団体一覧（2022）
	【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】RSL-コミュニティ（池袋）
	【2023シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】RSL-コミュニティ（埼玉）
	【230725】＜ボランティアセンター運営協議会＞議事録
	大学ホームページ（産学連携によるDX人材育成プログラム開発に向けた協力を開始）
	大学ホームページ（日本初のAI特化大学院研究科とIT企業が共同研究の新スキーム確立を目指す）
	大学ホームページ（社会連携・地域連携）
	大学ホームページ（立教サービスラーニング(RSL)）
	RSL開講科目（実践系）（2023）
	大学ホームページ（授業・履修（SPIRIT））
	大学ホームページ（立教サービスラーニングセンター）
	立教サービスラーニング（RSL）GUIDE 2023
	大学ホームページ（グローバル・リーダーシップ・プログラム）
	大学ホームページ（立教大学グローバル・リーダーシップ・プログラム(GLP)が東北6県研究所（ロッケン）と連携）
	大学ホームページ（地域と連携した活動（豊島区）（理学とビジネスリーダーシップ））
	大学ホームページ（ボランティア活動）
	「RIKKYO CHALLENGE」の具体的な活動内容
	大学ホームページ（学生と地域をつなぐ“学生コーディネーター”の一期生を任命）
	大学ホームページ（生涯学習・社会人の方向け講座のご案内）
	立教セカンドステージ大学の特徴
	【立教セカンドステージ大学】ウェブページ
	社会人向け講座一覧
	【経営学研究科】ウェブページ（「リーダーシップ開発力育成コース」（産学連携教育イノベーション育成プログラム））
	大学ホームページ（ニュース&イベント）
	受託共同研究一覧（2022）
	【経済学部】大学ホームページ（“JAPAN発食品文化の可能性”の共同研究を開始!!）
	【経済学部】ウェブページ（サンヨー食品サマーワークショップ）
	【経済学部】ウェブページ（サンヨー食品(株)プレゼンツ商品企画プレゼン大会）
	【理学部】大学ホームページ（選択的に二酸化炭素を吸着する新規多孔性物質を開発）
	大学ホームページ（産学官共同「教育」プロジェクト）
	【観光学部】大学ホームページ（総長、担当学生らが埼玉県知事を表敬訪問（ぶらって埼玉プロジェクト））
	【観光学部】「IKEBUKURO West」（JR東日本池袋運輸区×立教大学観光学部生）
	【観光学部】西川研究室ウェブページ（千葉県野田市 リパーサイクリングの新たな価値を創る）

	【ビジネスデザイン研究科】「コンサルティング・メソッド」による成果
	【ビジネスデザイン研究科】研究科パンフレット（2024）
	【ビジネスデザイン研究科】TMIP ウェブページ
	大学ホームページ（「持続可能な開発目標（SDGs）」の推進）
	【理学部】大学ホームページ（中高生チャレンジ★ラボ）
	【理学部】ウェブページ（こどもはかせ教室 2023 のお知らせ）
	【人工知能科学研究科】ウェブページ（「Rikkyo AI オープンハウス 2022」開催のお知らせ）
	大学ホームページ（MOOC（オンライン公開講座））
	大学ホームページ（公開シンポジウム「AI-ELSI」）
	【人工知能学研究科】大学ホームページ（研究者情報／人工知能の哲学・倫理）
	大学ホームページ（地域と連携した活動（豊島区））
	豊島区及び池袋での主な活動
	「豊島こども大学」学生レポート（2022）
	【経済学部】大学ホームページ（東京都「自動運転技術を活用したビジネスモデル構築に関するプロジェクト」に郭洋春ゼミナールが参加）
	【理学部】ウェブページ（地域／社会連携）
	【異文化コミュニケーション学部】ウェブページ（豊島区 × 異文化 地域連携事業）
	【異文化コミュニケーション学部】ウェブページ（体験を通じた学び）
	地域連携活動紹介（立教大学新座キャンパス）
	新座市での主な活動
	【220922】＜部長会＞新座市国際交流協会主催「国際交流デー」の後援
	大学ホームページ（立教大生が埼玉県知事にアイデアを提言!）
	陸前高田グローバルキャンパスウェブページ
	【230316】＜部長会＞2022 年度立教大学陸前高田サテライト実施報告
	大学ホームページ（陸前高田プロジェクト）
	陸前高田プロジェクト実施報告（2023）
	大学ホームページ（林業体験）
	陸前高田グローバルキャンパスウェブページ（災害時に福祉避難所や応急仮設住宅として利用できる移動式木造住宅）
	共に生きる－立教大学・東日本大震災後の10年
	【220512】＜部長会＞今後の国際化推進の基本方針（本文のみ抜粋）
	日本学術振興会ウェブページ（スーパーグローバル大学創成支援事業）
	スーパーグローバル大学創成支援事業ウェブサイト（採択校の取組み－立教大学）
	日本学術振興会ウェブページ（大学の世界展開力強化事業（選定事業一覧））
	協定校一覧（2023.10.20）
	大学ホームページ（キャンパスでできる国際交流）
	【統合版】部長会議案（計33回）（2022）
	【文学部】自己点検・評価報告書様式（2022年度）（基準4及び基準9）
	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレンウェブページ
	【221110】＜部長会＞公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとの包括的教育研究協力に関する協定書の締結
	大学ホームページ（「豊島区×立教大学 地域課題提言ワークショップ」最終報告会）
	【コミュニティ福祉学部】大学ホームページ（埼玉県知事とコミュニティ福祉学部の学生が意見交換）
	陸前高田イタルトコロ大学ウェブページ
	大学ホームページ（若者向けに SNS で気仙地域の魅力を発信）
	陸前高田グローバルキャンパスウェブページ（「気仙辺の春を探して」を開催しました!）
	大学ホームページ（地域課題を解決するアイデアが東大公共政策大学院主催コンテストでグランプリを受賞）
	大学ホームページ（カーボンニュートラル宣言）
	SDGs 又はカーボンニュートラルに関連する新設科目
	大学ホームページ（としまコミュニティ大学 2022 年度立教大学提供一般公開講座【文化教養】4 講座が終了）
	【230307】＜事務主管者会議＞職員研修（能力開発）制度（プログラム概要）
10 大学運営・財務 （1）大学運営	大学ホームページ（「RIKKYO VISION 2024」Project Over View）
	大学ホームページ（「RIKKYO VISION 2024」）
	【181206】＜部長会＞立教大学総合発展基本構想

副総長紹介（ウェブページ）
立教学院の情報公開（ウェブページ）
総長候補者選挙規程
総長候補者選挙施行細則
役員（理事・監事）（2023年4月6日時点）
【200108】＜評議員会＞新旧対照表（寄附行為）
副総長に関する規程
教授会及び研究科委員会に意見を聴くことが必要なものとして定める事項
常務理事会・理事会会議日程表（2023年度）
事務主管者会議日程（2023年度）
【211202】＜部長会＞「RIKKYO Future Project」の実施
【200428】＜事務主管者会議＞出勤体制（コロナ特別対応）状況アンケート結果報告
【200609】＜事務主管者会議＞第2回出勤体制（コロナ特別対応）状況アンケート結果報告
【200707】＜事務主管者会議＞在宅勤務に関するアンケート調査ご協力のお祝い
テレワーク勤務規程
【220222】＜事務主管者会議＞61歳以降の働き方に関するアンケート実施報告
【220607】＜事務主管者会議＞働き方改革推進プロジェクト2021年度活動報告
情報戦略の推進に関する目安箱（入力フォーム例）
危機管理基本規程
防火・防災管理規程
放射線障害予防規程
立教学院危機管理基本マニュアル
全学院共通の地震・火災リスク対応マニュアル
緊急時マニュアル（池袋）
緊急時マニュアル（新座）
防火・防災・防犯（教職員向けリンク一覧）
大学ホームページ（緊急連絡システム）
大学ホームページ（大地震対応マニュアル（防災のしおり））
【220222】＜事務主管者会議＞2021年度危機管理広報対応研修
【230725】＜事務主管者会議＞危機管理研修（広報対応）の実施
個人情報保護規程
【220519】＜部長会＞内部公益通報制度の構築
【200221】＜常務理事会＞新型コロナウイルス対策本部の設置について
大学ホームページ（新型コロナウイルス感染症への対応について（3月2日16:45更新））
新型コロナウイルス感染症についてのQ&A（3月29日更新）
大学ホームページ（在学生のみなさまへ（新型コロナウイルス感染症関連情報））
新型コロナウイルスの社会的状況に応じた活動制限指針
【230608】＜国際化推進会議＞2023年度海外留学プログラム実施における危機管理対応
【230720】＜部長会＞2023年度「大学生のリスクマネジメント」プログラムの開催
【231005】＜部長会＞2023年度学生部主催会計プログラムの開催について
【231026】＜部長会＞2024年度立教大学予算編成方針
【230216】＜部長会＞2023年度大学予算案
【230314】＜評議員会＞2023年度立教学院予算案概要
【230310】＜理事会＞2022年度決算見通し（1月末日現在）
経理規程
経理実施要項
大学ホームページ（組織）
事務部局職務権限規程
大学ホームページ（建学の精神と求める職員像）
【230221】＜事務主管者会議＞2024年度立教学院専任職員採用（新卒採用）
職員昇格規程
【230116】＜情報戦略委員会＞本学院専任職員を対象とするデータ活用人材の育成・活用に向けた制度等の整備
嘱託職員B就業規則
メンタルヘルスハンドブック
大学ホームページ（立教大学の教育目的と各種方針（立教大学に於けるSDの実施方針・計画））
職員研修（SPRIT）
人事課が行う研修受講者数一覧（2023）

	大学ホームページ（職員研修制度）
	R-CAP プロジェクト一覧
	【181005】＜理事会＞RCFT 推進本部の設置
	RCFT（実施計画、メンバー、活動報告等）
	職員研修の実績（2017～2022）
	【231024】＜事務主管者会議＞職員研修（能力開発）制度の整備
	大学ホームページ（大学教育開発研究シリーズ）
	ハラスメント防止対策研修会（実施管理職、専任一般職員、教員）
	【2018～2023】＜しょうがいしゃ（学生・教職員）支援ネットワーク会議＞しょうがい学生支援 FD ワークショップ
	人権・ハラスメントセンター活動報告（2018～2022）（研修分抜粋）
	【210316】＜事務主管者会議＞働き方改革推進プロジェクト 2020 年度活動報告
	【211111】＜部長会＞ガバナンス関連事項の検討とワーキンググループ等の設置
	【220225】＜理事会＞令和 3 年度「私立大学ガバナンス・コード」遵守状況報告書の提出
	目標管理シート記入要領（カオナビ）
	監事監査規程
	【230224】＜理事会＞2023 年度内部監査計画
	【230526】＜理事会＞2023 年度監事監査計画
	監事による監査報告書（6 カ年分）
	監査法人又は公認会計士による監査報告書（6 カ年分）
	内部監査規程
	内部監査計画（2017～2023）
	【230616】＜理事会＞内部監査報告 2022（2022 年 7 月以降実施分）（鑑文のみ）
	内部監査における各部署に共通する主な指摘事項（2017～2023）
	【210610】＜部長会＞2021 年度第 1 回しょうがいしゃ（学生・教職員）支援ネットワーク会議報告
	【200707】＜事務主管者会議＞働き方改革推進プロジェクトの設置（学院管理担当理事）
	＜事務主管者会議＞「働き方改革推進プロジェクト」による 給与制度および 61 歳以降の働き方の 見直しに関する提案
	職員の勤務体制について（新型コロナウイルス感染防止対策のための特別対応）
	【法人】ウェブページ（オンラインを活用した 教育・学修支援-“学びを止めない”立教学院の取 り組み-）
	【法人】事業報告書（2020）
	【法人】事業報告書（2021）
10 大学運営・財務 （2）財務	【230119】＜部長会＞大学中期計画（2023 年度～2027 年度）・事業計画（2023 年度）
	【230119】＜部長会＞大学財政計画（2023 年度～2027 年度）
	【230526】＜理事会＞総合決算説明資料（資金収支計算書概要）（2022）
	【法人全体】貸借対照表（2022）
	【230112】＜部長会＞大学中期計画（2023 年度～2027 年度）・事業計画（2023 年度）関連予算の 管理
	【221013】＜部長会＞大学中期計画・事業計画管理委員会の設置
	私立大学等改革総合支援事業に係る協議（2023）
	科学研究費補助金の採択件数等（2018～2022）
	科研費採択件数・配分一覧（JSPS ウェブページ）（2018～2022）
	科研費新規採択上位 30 機関（JSPS ウェブページ）（2018～2022）
	受託研究費等（2018～2022）
	日本私立大学振興・共済事業団ウェブページ（補助金の交付状況）
	立教学院 150 周年記念募金（ウェブページ）
	【法人】ウェブページ（立教学院創立 150 周年記念募金）
	大学ホームページ（立教へのご支援（ご寄付））
	大学ホームページ（校友のための、校友による遺贈・相続相談室）
	【法人】ウェブページ（2022 年度事業・財務情報）
	資金運用規程
	【231128】＜事務主管者会議＞第 1067 回理事会（2023 年 11 月 24 日）報告メモ（抜粋）
	財務計算書類（6 カ年）
	5 カ年連続財務計算書類
その他	講座科目履修者数等（0627 追加提出）

	大学教育開発・支援センター実施プログラム等 (0627 参加者数等追記)
	主な SD プログラムの参加者数等 (0627 追加提出)
	<不正防止計画推進本部会議>2023 年度 eAPRIN 修了状況について (0627 追加提出)

立教大学提出・閲覧用準備資料一覧（実地調査）

	資料の名称
1 理念・目的	【240314】＜教育改革推進会議＞「学びと成長の歩みの記録」調査報告書
	【240711】＜教育改革推進会議＞「卒業時アンケート」調査報告書
	【231214】＜教育改革推進会議＞「卒業後調査」報告書
	【2023】＜シラバス検索結果＞立教大学の歴史
	【2024】＜シラバス検索結果＞立教大学の歴史
	【2024 履修要項（抜粋）】卒業要件単位表
	「立教大学の歴史」授業評価アンケートの主な結果と科目担当者の所見
	大学ホームページ（歴史に学ぶ「自校史教育」）
	大学ホームページ（「同志社大学と立教大学」相互協力・連携に関する協定締結記念対談）
	大学ホームページ（立教のリベラルアーツ教育—人格を陶冶（とうや）する教養とは）
	大学ホームページ（150周年を迎える立教—学びをつないで未来をつくる。）
	大学ホームページ（【対談】京都精華大学 ウスビ・サコ学長×立教大学 西原 廉太総長）
	立教学院創立150周年記念ウェブページ（創立150周年事業・イベント）
	立教学院創立150周年記念ウェブページ（立教未来構想）
	大学ホームページ（季刊『立教』268号＜立教のリベラルアーツ教育＞発行）
	セントポールズプラザウェブページ（季刊立教）
	2 内部質保証
内部質保証推進体制（概念図）	
【2023】＜全学内部質保証推進組織＞議事	
【2023】＜大学院委員会＞議事	
【2023】＜教育改革推進会議＞議事	
【2023】＜国際化推進会議＞議事	
【2023】＜全学共通カリキュラム運営センター委員会＞議事	
【2023】＜自己点検・評価運営委員会＞議事	
【2023】＜入試委員会＞議事	
【2023】＜不正防止計画推進本部会議＞議事	
【231214】各合議体進行メモ（例）	
【140605】＜自己点検・評価運営委員会＞本学における点検・評価活動方法	
2017年度以降の重点評価項目について	
【101021】＜教育改革推進会議＞3方針の変更について	
【2020～2023】大教センター事業報告書	
【240314】＜教育改革推進会議＞「学修成果ルーブリック」の点検結果等	
【231214】＜教育改革推進会議＞『オンデマンド授業の基本とつくり方』の活用案内	
【法人】ウェブページ立教学院中期計画（2024年度～2028年度）・事業計画（2024年度）	
＜自己点検・評価運営委員会＞大学評価結果	
大学ホームページ（相互協力・連携に関する協定を締結）	
3 教育研究組織	センター等一覧
	附置研究所、センターその他の組織等の趣旨・目的等
	センター、研究所及び研究センター一覧（組織図より）
	【GLAP】ウェブページ（ADMISSION & AID）
	大学ホームページ（GLAP 3方針（日））
	大学ホームページ（GLAP 3方針（英））
	GLAP 運営センター規程
	【240416】＜GLAPセンター委員会＞2024年度 GLAP 運営センター構成
	学部等設置プロジェクト（①②）
	学部等設置プロジェクト報告（①②）
	プロジェクト報告に係る審議（①②）
	【230713】＜部長会＞環境学部の構想
	【230713】＜部長会＞室長メモ（抜粋）
	23区規制の例外活用に係る届出書類
4 教育課程・学習成果	【110421】＜教育改革推進会議＞学士課程統合カリキュラム検討委員会報告

【120308】<教育改革推進会議>第2次学士課程統合カリキュラム検討委員会報告
【121220】<教育改革推進会議>第3次学士課程統合カリキュラム検討委員会最終報告
【140313】<教育改革推進会議>第4次学士課程統合カリキュラム検討委員会最終報告
【150129】<国際化推進会議>GLAP ワーキンググループ検討状況
【150702】<国際化推進会議>グローバル・リベラルアーツ・プログラム (GLAP) WG 最終報告
【151001】<部長会>グローバル・リベラルアーツ・プログラムの設置
【220120】<部長会>GLAP 検討ワーキンググループ報告
【GLAP】2023年度グローバル教養副専攻学部展開科目報告書
【210729】<部長会>GLAP 振り返り報告書
正課外教育の理念、目的及び学修成果
【090312】<教育改革推進会議>「正課外教育」検討グループ答申
【091008】<教育改革推進会議>「第2次正課外教育検討グループ」答申
立教サービスラーニングセンター規程
【190530】<教育改革推進会議>2018年度「3年次4月学修状況調査」調査報告における学部見解へのコメント
【240125】<教育改革推進会議>2023年度「グローバル基幹力」ルーブリックを用いた自己評価の実施及び2022年度実施結果報告
【171005】<部長会>2019年度以降の授業時間等検討委員会の設置
【180125】<部長会>2019年度以降の授業時間等検討委員会報告
【180301】<部長会>2019年度以降に規定の授業時間を確保するための方策
【180315】<部長会>2019年度から規定の授業時間を確保するための方策
【180426】<部長会>2019年度からの授業時間変更に関する直近の課題と対応方針
【180517】<部長会>100分授業の実施に係る時間割調整への対応
100分授業のデザインガイド
【181108】<部長会>2018年度秋学期FD講演会の開催
【190516】<部長会>2019年度春学期FDワークショップの開催
「先輩による『履修要項』読み方ナビ」事前研修①ご案内及び概要
「先輩による『履修要項』読み方ナビ」事前研修②全体説明
「先輩による『履修要項』読み方ナビ」事前研修③全学共通科目について
「先輩による『履修要項』読み方ナビ」事前研修④異文化コミュニケーション学部事前説明
「先輩による『履修要項』読み方ナビ」事前研修⑤異文化コミュニケーション学部用資料
2021～2023年度ラーニングアドバイザー利用統計（池袋キャンパス）
2021～2023年度ラーニングアドバイザー利用統計（新座キャンパス）
ラーニングアドバイザー制度による教育効果
シラバス作成の手引き
Canvas LMS の活用例
Canvas LMS 利用統計（授業数・教員数）
学校・社会教育講座履修ガイドブック
【050523】<全学教務委員会>履修登録上限単位数の設定
【240712】<全学教務委員会>低単位修得者資料の提供について
2024年度在籍者のGPA平均値
【現代心理学部】博士学位申請論文の審査状況
【080131】<教育改革推進会議>学生に対する「卒業時」「入学時」アンケートの開発について
【080131】<教育改革推進会議>教育調査スキームの全体像（イメージ）
【080306】<教育改革推進会議>「卒業時」「入学時」アンケートの実施について
【121115】<教育改革推進会議>2013年度に実施する学生調査について
【190627】<教学改革推進会議>卒業後調査のテスト実施について
【201015】<部長会>2020年度「就職先企業等に対する調査」の実施
学修成果ルーブリック
【観光学部】修論発表者報告者準備要領
【観光学部】研究実績に関する調査
【現代心理学研究科】臨床心理学専攻大学院ガイダンス資料
【ビジネスデザイン研究科】履修要項（2023）抜粋
【ビジネスデザイン研究科】2024年春学期授業評価アンケート集計結果
【160512】<教育改革推進会議>「言語教育構想プロジェクト」の設置
【161013】<教育改革推進会議>言語教育構想プロジェクト報告書
【161110】<部長会>言語教育構想に関わる検討体制
【170316】<教育改革推進会議>第2次言語教育構想プロジェクト報告書

	<p>【180628】＜部長会＞英語教育新カリキュラムの構想</p> <p>【210715】＜全学共通カリキュラム運営センター委員会＞言語 B 教育新カリキュラム構想案</p> <p>【220721】＜全学共通カリキュラム運営センター委員会＞2024 年度以降の言語 B 教育新カリキュラム</p>
5 学生の受け入れ	<p>【230720】＜自己点検・評価運営委員会＞議事録（抜粋）</p> <p>【231214】＜自己点検・評価運営委員会＞議事録（抜粋）</p> <p>博士課程前期・後期課程収容定員充足率（2023・2024）</p> <p>2024 年度大学基礎データ表 2</p> <p>博士課程前期・後期課程説明会実績（2021～2023 年度）</p> <p>【240718】＜自己点検・評価運営委員会＞2024 年度入学受入結果（学部）</p> <p>【法学部】 【240423】＜教授会＞議事録抜粋</p> <p>【法学部】 【240423】＜教授会＞GPA の規定要因</p> <p>【法学部】 【240507】＜教授会＞議事録抜粋</p> <p>【法学部】 【240507】＜教授会＞GPA 規定要因（その 2）</p> <p>【現代心理学部】 【240514】＜教授会＞2025 年度入試における心理学科指定校の変更案</p>
6 教員・教員組織	<p>SGU 事後評価調書（成果指標データ）</p> <p>【240314】＜教育改革推進会議＞TA・SA の資質向上に向けた取組</p> <p>TA・SA 業務説明（2024）</p> <p>スキルアップ講座（動画）※一部抽出（2024）</p> <p>オンライン授業マニュアルサイト（一部画面）</p> <p>教室の AV 機器ご利用について（一部画面）</p> <p>プレ FD に関する情報提供</p> <p>SA 研修資料（ビジネスマナー）</p> <p>広報誌（季刊立教）原稿</p> <p>大学ホームページ（「学生による授業評価アンケート」報告書（2023））</p> <p>【240307】＜部長会＞2023 年度人権・ハラスメント対策センター活動報告</p> <p>＜部長会＞新任教員オリエンテーションの実施（2022～2024）</p> <p>新任教員オリエンテーション（SPIRIT）（2024）</p> <p>【220309】個人情報保護規程改正説明会（教職員向け）</p> <p>＜部長会＞防災訓練の実施報告（2021～2023）</p> <p>各学部等・研究科の FD ガイドライン</p> <p>【141218】＜部長会＞求める教員像および編成方針</p> <p>【221215】＜部長会＞大学として求める教員像および教員組織の編成方針の改定</p> <p>【221215, 22】＜部長会＞室長メモ</p> <p>【221222】＜部長会＞学部、研究科等として求める教員像および教員組織の編成方針の改定</p> <p>【210318】＜部長会＞室長メモ（抜粋）</p> <p>【210729】＜部長会＞室長メモ（抜粋）</p> <p>【211216】＜部長会＞ポジティブ・アクション実施時の人事枠発議書様式</p> <p>【211216】＜部長会＞室長メモ（抜粋）</p> <p>【特別専任教授関係】＜部長会＞室長メモ（抜粋）</p>
7 学生支援	<p>アカデミックアドバイザーの手引（2024 年 4 月一部改訂）</p> <p>【2024】アカデミックアドバイザー教員一覧</p> <p>【240419】＜全学教務委員会＞2023 年度低単位修得者への面談報告</p> <p>【210305】＜ネットワーク会議＞第 3 回議事録</p> <p>内部しょうがい学生支援のフロー等</p> <p>【230311】＜ネットワーク会議＞2023 年度ネットワーク事業計画（案）</p> <p>【240311】＜ネットワーク会議＞第 3 回議事録</p> <p>特別外国人留学生の支援登録手続</p> <p>【220317】＜部長会＞2021 年度第 4 回しょうがいしゃ支援ネットワーク会議報告</p> <p>【220428】＜部長会＞しょうがい学生支援に関する検討ワーキンググループの設置</p> <p>【220721】＜部長会＞しょうがい学生支援に関する検討ワーキンググループ答申</p> <p>【240314】＜部長会＞しょうがい学生の遠隔授業の受講に関する考え方</p> <p>【240509】＜部長会＞遠隔授業の受講に関する科目設置主体の対応</p> <p>【240704】＜部長会＞遠隔授業の受講に関する 2024 年度秋学期に向けた対応</p> <p>【240905】＜部長会＞遠隔授業の受講に関する 2024 年度秋学期の対応</p>

	ネットワーク事業実施報告 (2021~2023)
	CTC 未来財団ウェブページ (障がいのある青少年に対する修学及び就労機会創出の支援事業)
	2024_CTC 助成金 TC 申請書
	助成金交付決定通知書 (公益財団法人 CTC 未来財団)
	キャリアサポーターに係る募集要項等の例
	学部キャリアサポーターの担当業務等一覧 (2024)
	キャリアサポーター・キャリアセンター情報交換・連絡会 (2023)
	【190411】<部長会>留学生獲得に向けた WG の設置
	【190627】<部長会>留学生獲得 WG 第 1 回報告を受けての学部への協議依頼
	【191128】<部長会>留学生獲得 WG 第 2 回報告を受けての学部への協議依頼
	【191219】<部長会>留学生獲得 WG 第 2 回報告を受けての学部への協議依頼
	【200130】<部長会>留学生の受け入れ拡大に向けた実施方針
	【200305】<部長会>留学生獲得 WG 第 3 回報告を受けての奨学金検討
	【200319】<部長会>外国人留学生獲得 WG 第 4 回報告を受けて
	<部長会>室長メモ (抜粋) (減免制度見直し経緯)
	【220713】<学生生活支援協議会>議事録
	【221025】<学生生活支援協議会>議事録
	【230427】<部長会>AED 設置
8 教育研究等環境	文部科学省ウェブページ (立教大学における公的研究費の不正使用について)
	文部科学省ウェブページ (立教大学教授による研究活動上の不正行為 (盗用) の認定について)
	【240130】不正行為の認定に伴う措置・研修受講通知
	【240307】著作権研修会資料
	大学ホームページ (大学教育開発・支援センターニュースレター「MOVE」第 32 号)
	<不正防止計画推進本部会議>次第 (2023)
	<不正防止計画推進本部会議>記録 (2023)
	【210422】<教育改革推進会議>LMS 検討 WG の設置
	【211028】<教育改革推進会議>「LMS 検討 WG」報告
	【211111】<教育改革推進会議>次期 LMS 選定の進め方
	【220127】<教育改革推進会議>次期 LMS の選定
	【220526】<教育改革推進会議>CanvasLMS 導入の進め方
	【220630】<教育改革推進会議>CanvasLMS 先行運用科目の募集
	【221020】<教育改革推進会議>CanvasLMS の運用開始
	<教育改革推進会議>記録 (LMS 導入経緯)
	<不正防止会議>記録メモ (抜粋) (APRIN 修了状況)
9 社会連携・社会貢献	立教大学陸前高田サテライト運営規程
	【220715】<サテライト運営委員会>議事次第
	【220715】<サテライト運営委員会>議事要旨 (案)
	【220714】<部長会>2022 年度陸前高田交流ツアーの開催について
	大学ホームページ (陸前高田交流ツアーを実施します)
	陸前高田交流ツアー事後アンケート (2023)
	【230607】<サテライト運営会議>2023 年度事業計画書案
	【230928】<部長会>2023 年度陸前高田交流ツアーの開催
	【理学部】寄附型研究プロジェクト事業受入通知書 (写し)
	【理学部】【170607】<教授会>寄附型研究プロジェクト
	【170615】<部長会>寄附型研究プロジェクト事業の開設
	【理学部】<研究報告>寄附型研究プロジェクト (2017~2021)
	【理学部】【210310】<教授会・研究科委員会>記録 (寄附型研究 P 関係抜粋)
	【201015】<部長会>寄附型研究プロジェクト事業の受入
	【2024 シラバス】【異文化コミュニケーション学部】サービ斯拉ーニング
	【異文化コミュニケーション学部】<フィードバック関係資料>サービ斯拉ーニング AB
	【異文化コミュニケーション学部】日本語ネットとしま (学生記録メモ)
	豊島区ウェブページ
	【異文化コミュニケーション学部】入り込み・放課後参加者リスト (2022 秋~)
	【異文化コミュニケーション学部】サービ斯拉ーニング A 及び B 履修者の卒業論文題目一覧 (2021~2023)
	大学ホームページ (公開防災イベント「防災×アウトドア×大学」開催レポート)

	「防災×アウトドア×大学」実施報告書 【閲覧】
	『2023年度コミュニティスタディ報告書』 【閲覧】
	陸前高田グローバルキャンパスウェブページ (陸前高田グローバルキャンパスとは)
	陸前高田グローバルキャンパスウェブページ (ダウンロード (刊行物・様式等))
	陸前高田グローバルキャンパス活用例 (2019)
	陸前高田グローバルキャンパス利用実績 (2023)
	イタルトコロ大学実施報告 (2023)
	陸前高田グローバルキャンパスウェブページ (【240208】公式イベント「陸前高田イタルトコロ研究会 研究報告会」プログラムが決まりました!)
	陸前高田グローバルキャンパスウェブページ (陸前高田イタルトコロ大学 (登録団体紹介))
	【170302】<部長会>2017年度研究外部資金採択者支援資金対象者
	2024年度研究費ハンドブック (研究者向け)
	【230608】<部長会>2023年度研究教育推進資金の配分決定
	【160714】<部長会>理学部における補助金申請に係る特定資産の設定
	【161201】<部長会>理学部特定資産への研究教育推進資金の積立
	【理学部】理学部特定資産内規
	【理学部】令和6年度私立学校施設整備費補助金交付決定通知書
	【2022】立教RSLセンター活動報告書 (抜粋)
	食品・文房具・学習参考資料の募集 (RSL履修生作成チラシ)
	大学ホームページ (「食」と「農」で地域社会をデザインするフィールドワークを実施)
	大学ホームページ (社会の課題を解決する取り組み「子ども食堂フォーラム」を開催!)
	東京大学ウェブページ (チャレンジ!!オープンガバナンス (COG) 2022)
	ボランティアセンター活動報告書 (抜粋) (2023)
	【220519】<部長会>室長メモ (抜粋)
	【220708】<総合企画会議>SCJとの協力について
	【221028】<総合企画会議>SCJとの協定書の締結
	【221110】<部長会>室長メモ (抜粋)
	大学ホームページ (セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと「包括的教育研究協力に関する協定」を締結)
	【230216】<部長会>募金活動の実施
	【230427】<部長会>募金活動の実施報告
	【231026】<全学共通カリキュラム運営センター委員会>新規科目(SCJ協力科目)の設置について
	【231026】<全学共通カリキュラム運営センター委員会>記録 (抜粋)
	【231130】<部長会>SCJに対する施設貸出協力
	【240411】<部長会>総長室構成員の職務事項
	【2024シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】子どもの権利から考える国際協力
	【210222】<アンケート回答>大学コアリション
	【210531】<総長室会議>大学コアリション (アンケート再提出)
	【210604】<総合企画会議>大学等コアリションへの参加
	【210610】<部長会>大学等コアリションへの参加
	【210610】<部長会>室長メモ (抜粋)
	【210715】<部長会>人事議案 (総長室調査役任命)
	【210730】<総合企画会議>コアリション設立総会配布資料等
	【211001】<総合企画会議>カーボンニュートラル人材育成講座 (仮称) 案
	【211216】<全学共通カリキュラム運営センター委員会>科目新設 (カーボンニュートラル人材育成講座)
	【211216】<全学共通カリキュラム運営センター委員会>記録 (抜粋)
	【220120】<部長会>カーボンニュートラル宣言等 (案)
	【220120】<部長会>室長メモ (抜粋)
	文部科学省ウェブページ (カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション設立総会)
	【2024シラバス】【全学共通カリキュラム運営センター】カーボンニュートラル人材育成講座
10 大学運営・財務 (1) 大学運営	【210712】<学院執行部会議>2021年度働き方改革推進プロジェクト
	【240409】<事務主管者会議>2024年度働き方改革推進プロジェクトの実施
	【240201】<部長会>「働き方改革推進PJ」による給与制度等の見直しに関する提案
	基準10 (教学改革課) (2021様式)
	基準10 (教学改革課) (2021提出用)
	【220929】<自己点検・評価運営委員会>統合版 (基準10)
	【210721】<学生生活支援協議会>議事録

	【211005】＜学生生活支援協議会＞議事録
	【211202】＜部長会＞室長メモ（抜粋）
	【231030】＜学生生活支援協議会＞「RFP」（2024）
	【240530】＜部長会＞『RFP』活動報告
	【240530】＜部長会＞『RFP』実施（2024）
	【240530】＜部長会＞室長メモ（抜粋）
	＜部長会＞各種委員会の部長会委員（2021～2024）
	【181018】＜部長会＞情報戦略推進体制検討WGの設置
	【181115】＜部長会＞情報戦略推進体制検討WG報告
	【190221】＜部長会＞情報戦略推進計画検討WGの設置
	【190509】＜部長会＞情報戦略推進計画検討WG報告
	【190516】＜部長会＞情報戦略の推進への着手
	【190530】＜部長会＞情報戦略推進室の開設
	【190613】＜部長会＞2019年度における情報戦略の推進方策
	【191003】＜部長会＞情報戦略1.0の骨子
	【191128】＜部長会＞情報戦略1.0の主要施策の方向性
	【191219】＜部長会＞情報戦略1.0の推進
	【200305】＜部長会＞情報戦略委員会の設置
	【200312】＜部長会＞情報戦略委員会の設置
	【220414】＜部長会＞情報戦略2.0の策定
	＜部長会＞室長メモ（情報戦略策定経緯）
	【210318】＜部長会＞室長メモ（抜粋）
	【210610】＜部長会＞室長メモ（抜粋）
	【211209】＜部長会＞支援ネットワーク会議報告
	【211209】＜部長会＞室長メモ（抜粋）
	【220317】＜部長会＞支援ネットワーク会議報告
	【220317】＜部長会＞室長メモ（抜粋）
10 大学運営・財務 （2）財務	【231110】＜理事会＞立教学院予算編成方針
その他	総長プレゼンテーション資料
	追加提出資料に関する説明・補足資料
	【230706】＜部長会＞2024年度からのGLAP教員組織
	【230706】＜部長会＞室長メモ（GLAP抜粋）
	＜総長室会議＞検討事項メモ（事例）
	＜総合企画会議＞検討事項メモ（事例）
	【理学部】2022年度教職履修者リスト
	【理学部】2023_低単春アドバイザー面談
	教育改革推進会議の課題（2023, 2024）
	国際化推進会議の課題（2023, 2024）
	＜教育改革推進会議＞議事（2021）
	＜教育改革推進会議＞議事（2022）
	【220428】＜教育改革推進会議＞RLS第2ステージ検討WGの設置
	【241024】＜部長会＞RLS-II構想検討副専攻制度・理数系科目分科会最終報告
	＜部長会＞不正防止計画推進本部会議の設置経緯

立教大学提出資料一覧（意見申立）

	資料の名称
4 教育課程・学習成果	意見申立の概要
	【231019】＜教育改革推進会議＞学位論文審査基準の修正
	【231214】＜教育改革推進会議＞学位論文審査基準の修正結果
	履修要項（抜粋）（2024）